

**「第3期南九州市子ども・子育て支援事業計画」
策定のためのアンケート調査**

結果報告書

令和6年5月

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	報告書のみかた	1
II	就学前児童のいる世帯の調査結果	2
1	お住まいの地域について	2
2	お子さんとご家族の状況について	3
3	お子さんの「定期的」な教育・保育の利用状況について	5
4	お子さんの「不定期」な教育・保育の利用状況について	11
5	お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について	13
6	お子さんの病気の際の対応について	14
7	保護者の就労状況・職場の両立支援について	16
8	子どもの居場所	23
9	ヤングケアラー関係	25
10	子どもの育ちをめぐる環境について	27
III	就学児童のいる世帯の調査結果	29
1	お住まいの地域について	29
2	お子さんとご家族の状況について	30
3	子どもの育ちを巡る環境について	33
4	保護者の就労状況について	37
5	お子さんの病気やけがの際の対応について	41
6	お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	42
7	お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について	45
8	放課後の過ごし方について	46
9	子どもの居場所	49
10	ヤングケアラー関係	51
11	さいごに	53
IV	自由意見（多数意見を中心に一部抜粋）	54
1	子育て環境や支援に関するご意見	54

I 調査の概要

1 調査の目的

「第3期南九州市子ども・子育て支援事業計画（令和7～11年度）」の策定を進めるにあたり、子育て家庭の生活状況や市の施策に対する、保護者の方の意見・要望を把握し、南九州市の新しい子育て支援策を検討するため、調査を実施しました。

2 調査の方法

（1）就学前児童のいる世帯

- 調査対象：南九州市在住の就学前児童がいる家庭の保護者
- 調査期間：令和6年3月27日～令和6年4月16日
- 調査方法：郵送及びWEB回答
- 配布・回収：

配布数	回収数	回収率
700 票	373 票	53.3%

（2）就学児童のいる世帯

- 調査対象：南九州市在住の就学児童がいる家庭の保護者
- 調査期間：令和6年3月27日～令和6年4月16日
- 調査方法：郵送及びWEB回答
- 配布・回収：

配布数	回収数	回収率
500 票	288 票	57.6%

3 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 図表中の「n」は、「Number of case」の略で、その設問に回答すべき対象者数を示しています。一部の人に回答を求めている設問などがあるため、nの値は設問によって異なります。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出しています。本文及び図中の数字に関しては、全て小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表記します。このため、全ての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は回答者が皆無であることを表します。また、一部図表においては「0.0」の表記を省略しているものがあります。

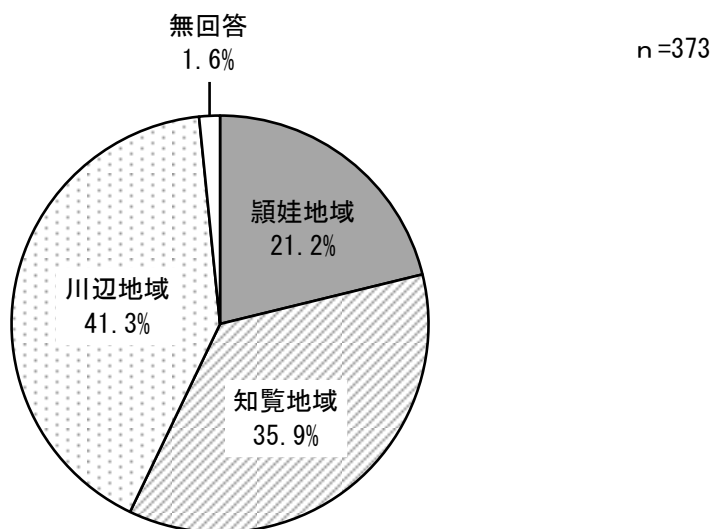
Ⅱ 就学前児童のいる世帯の調査結果

1 お住まいの地域について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地域をお答えください。(当てはまるもの1つに○)

回答者の居住地域は、「川辺地域」が41.3%と最も多く、次いで「知覧地域」が35.9%、「鰐娃地域」が21.2%となっています。



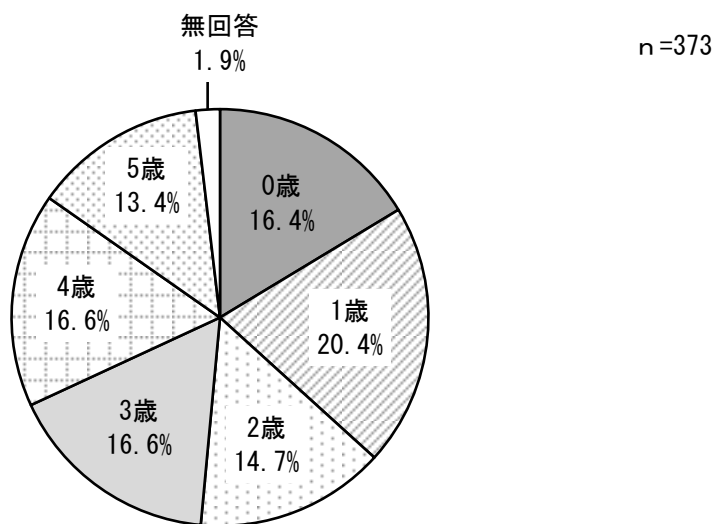
2 お子さんご家族の状況について

(1) お子さんの年齢

問2 宛名のお子さんの年齢（令和5年4月1日現在）をお答えください。（当てはまるもの1つに○）

（基準日時点でお子さんが生まれていない場合は0歳となります）

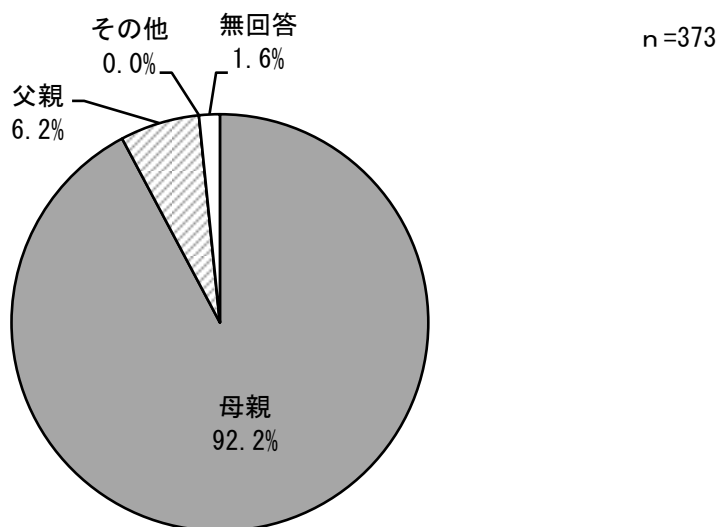
宛名の子どもの年齢は、「1歳」が20.4%と最も高く、次いで「3歳」「4歳」がそれぞれ16.6%、「0歳」が16.4%、「2歳」が14.7%、「5歳」が13.4%となっています。



(2) 回答者とお子さんの関係

問3 この調査にご回答いただく方はどなたですか。（当てはまるもの1つに○）

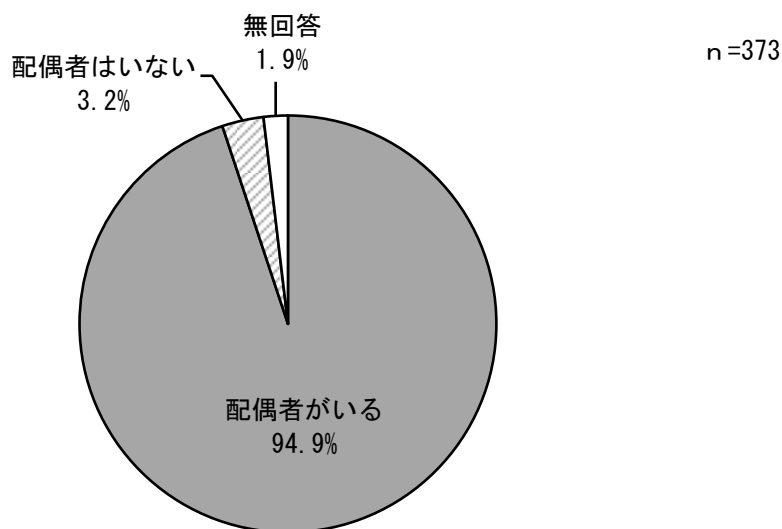
この調査の回答者は、「母親」が92.2%、「父親」が6.2%となっています。



(3) 回答者の配偶関係

問4 この調査にご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。(当てはまるもの1つに○)

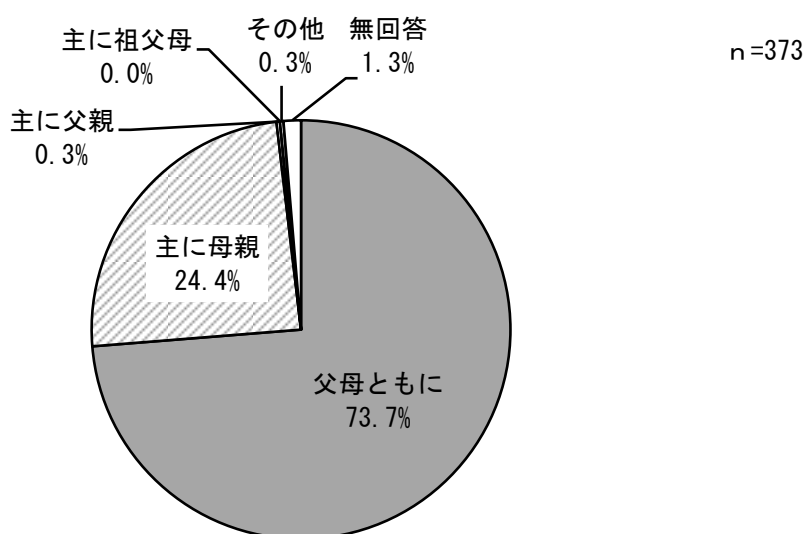
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が94.9%、「配偶者はいない」が3.2%となっています。



(4) お子さんの子育てを主に行っている方

問5 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っている方をお答えください。(当てはまるもの1つに○)

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」が73.7%と最も高く、次いで「主に母親」が24.4%となっています。



3 お子さんの「定期的」な教育・保育の利用状況について

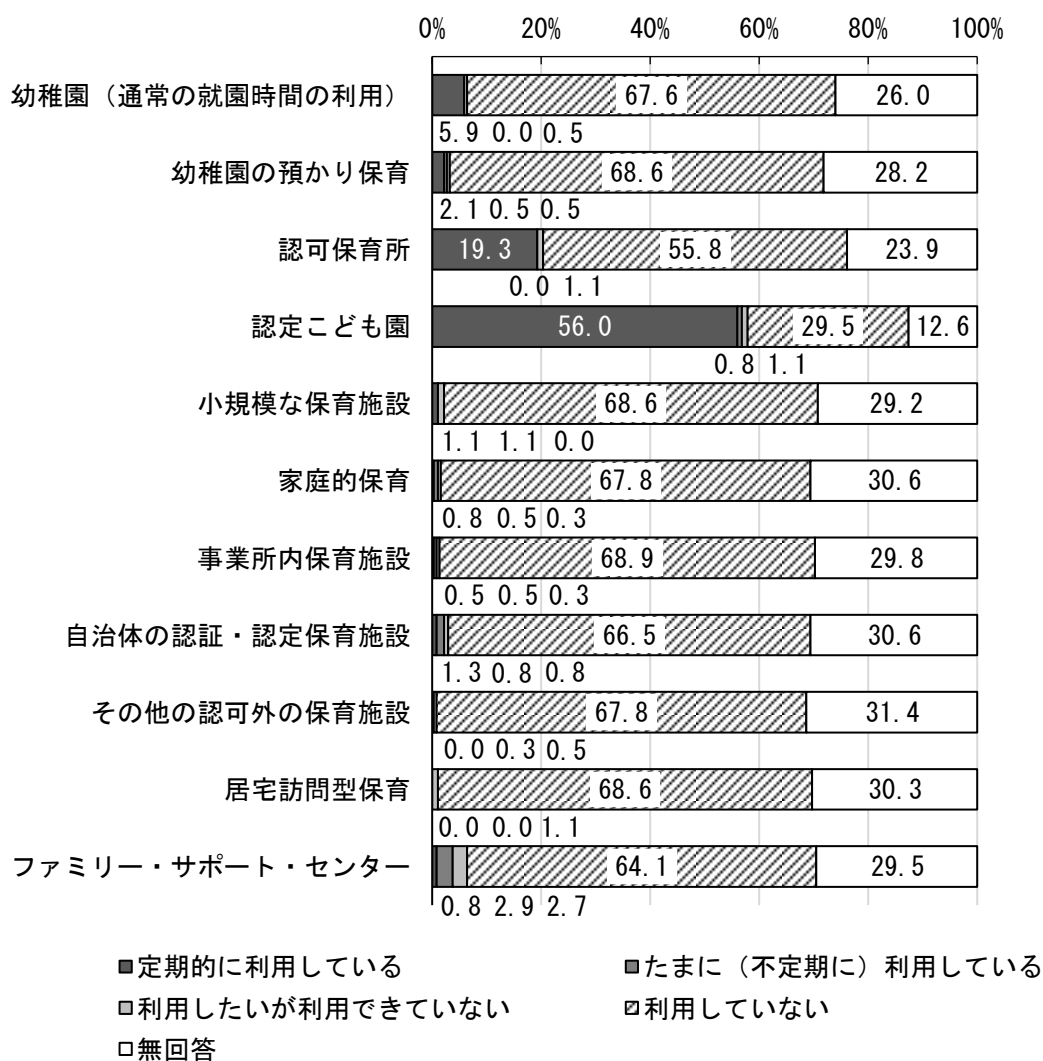
(1) 「定期的」な教育・保育事業の利用状況

問6 宛名のお子さんは、現在「定期的に」以下の事業を利用していますか。（それぞれ当てはまるものに○）

現在定期的に利用している事業は、「認定こども園」が56.0%と最も高く、次いで「認可保育所」が19.3%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が5.9%となっています。

利用していない割合は、「認可保育所」「認定こども園」以外では6割以上となっています。

n=373

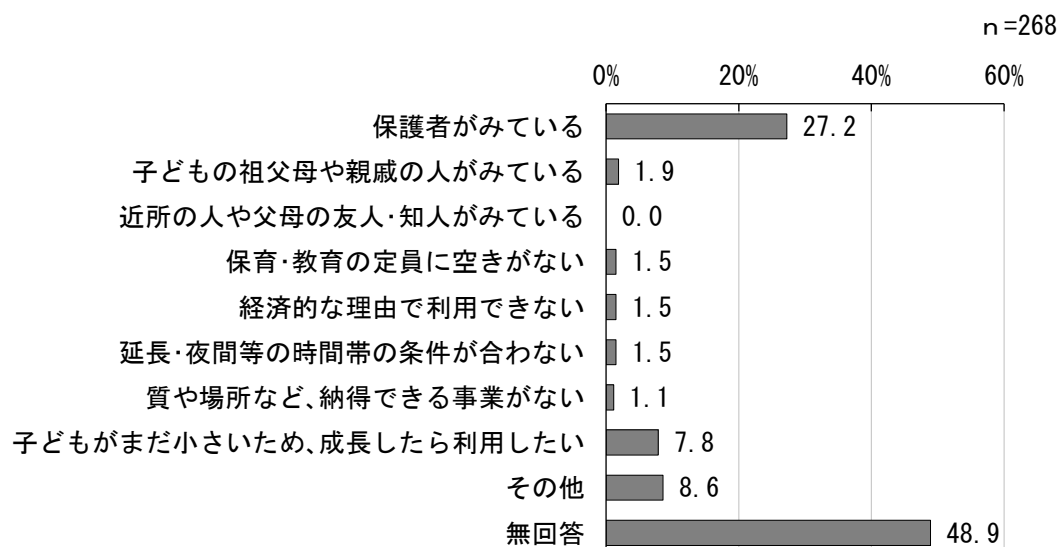


(2) 教育・保育事業を利用していない理由

【問6で「3. 利用したいが利用できていない」「4. 利用していない」を選んだ方にうかがいます。】

問6－1 教育・保育事業を利用できていない・していない理由は何ですか。主な理由をお答えください。（当てはまるもの1つに○）

教育・保育事業を利用していない理由は、「保護者がみている」が27.2%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため、成長したら利用したい」が7.8%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が1.9%となっています。

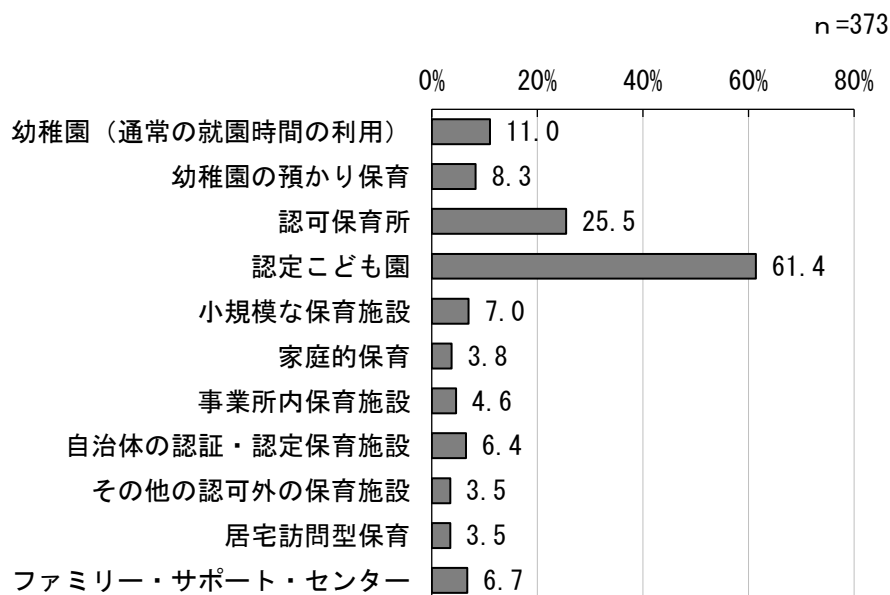


(3) 今後の「定期的な」教育・保育事業の利用の有無

問7 今後はいつ「定期的に」利用したいですか。(それぞれ当てはまるものすべてに○)

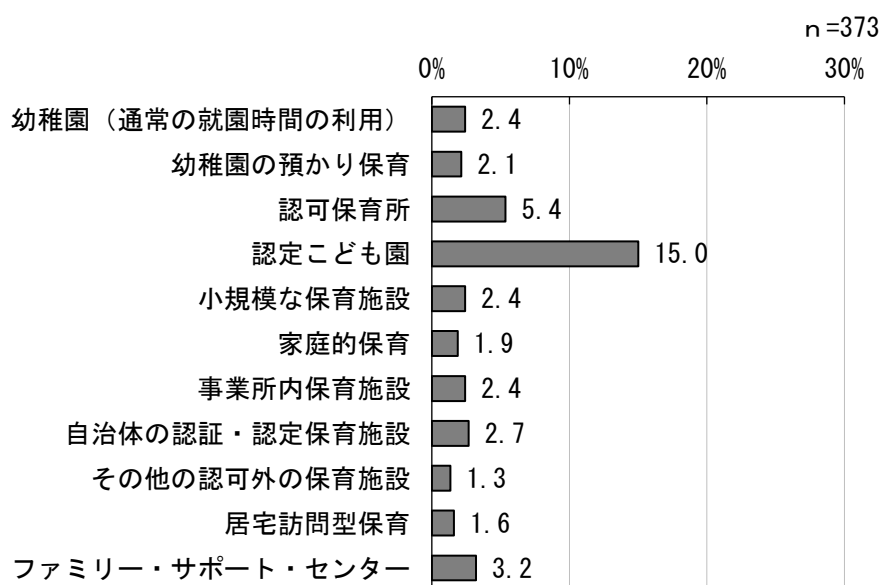
【平日】

今後、平日に定期的に利用したい事業は、「認定こども園」が61.4%と最も高く、次いで認可保育所が25.5%、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が11.0%となっています。



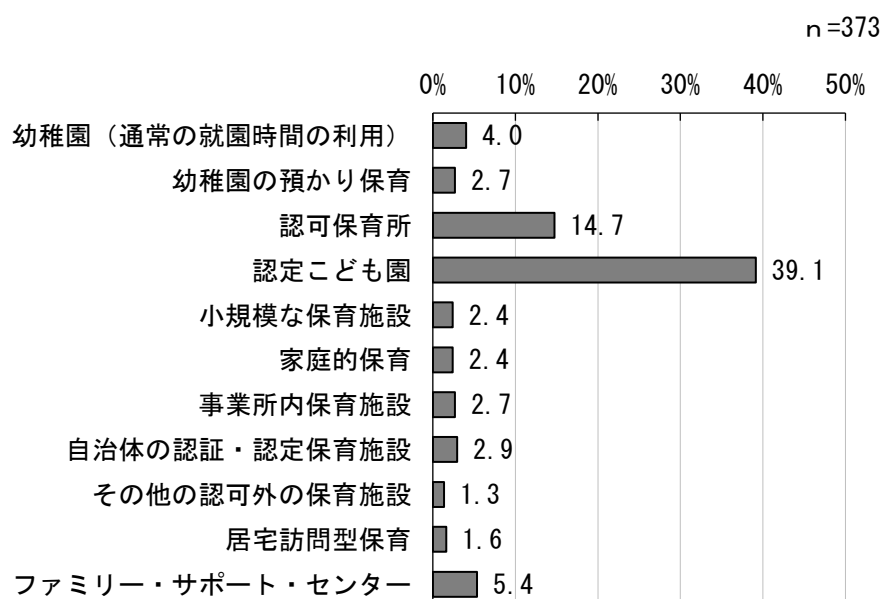
【お子さんの長期休暇期間中】

今後、子どもの長期休暇期間中に定期的に利用したい事業は、「認定こども園」が15.0%と最も高く、次いで「認可保育所」が5.4%、「ファミリー・サポート・センター」が3.2%となっています。



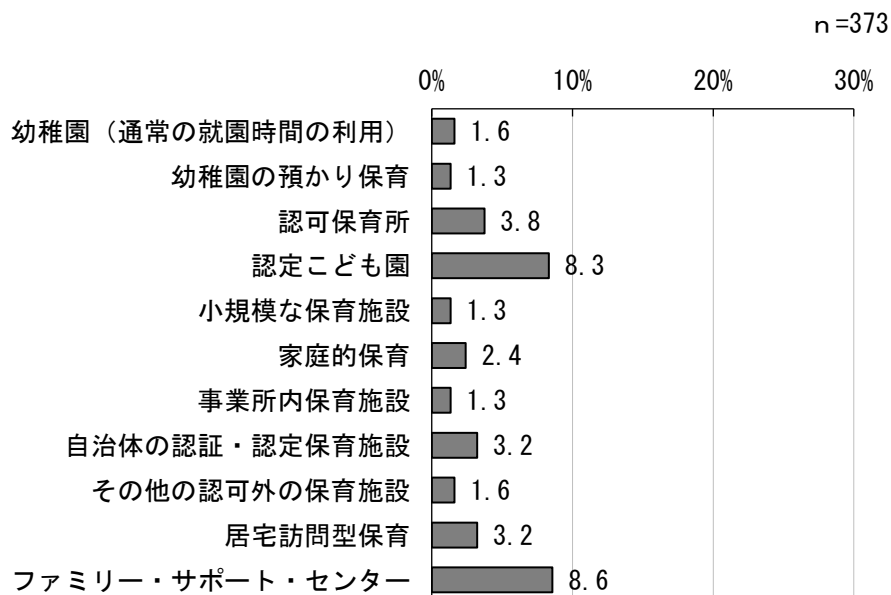
【土曜日】

今後、土曜日に定期的にご利用したい事業は、「認定こども園」が39.1%と最も高く、次いで「認可保育所」が14.7%、「ファミリー・サポート・センター」が5.4%となっています。



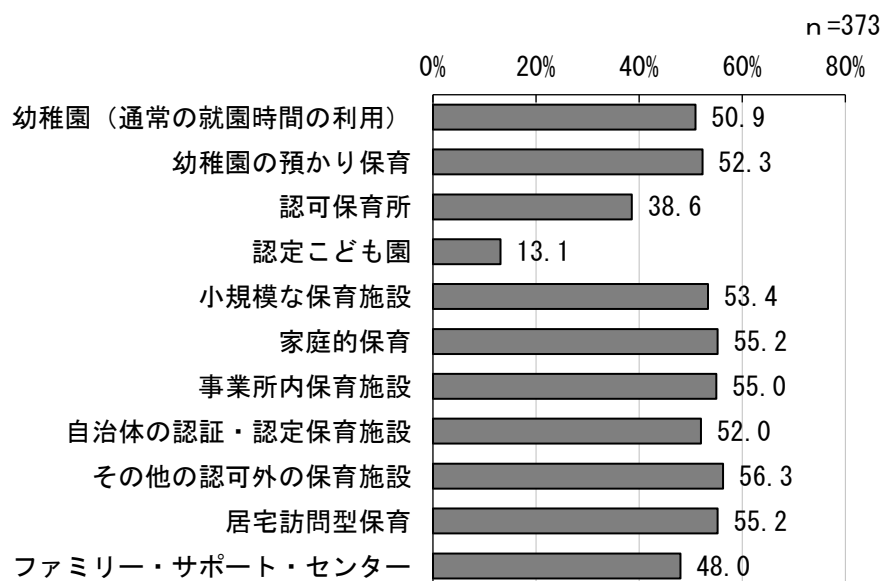
【日曜・祝日】

今後、日曜・祝日に定期的にご利用したい事業は、「ファミリー・サポート・センター」が8.6%と最も高く、次いで「認可こども園」が8.3%、「認可保育所」が3.8%となっています。



【利用希望はない】

今後、利用を希望しない事業は、「その他の認可外の保育施設」が56.3%と最も高く、次いで「家庭的保育」「居宅訪問型保育」がそれぞれ55.2%、「事業所内保育施設」が55.0%となっています。



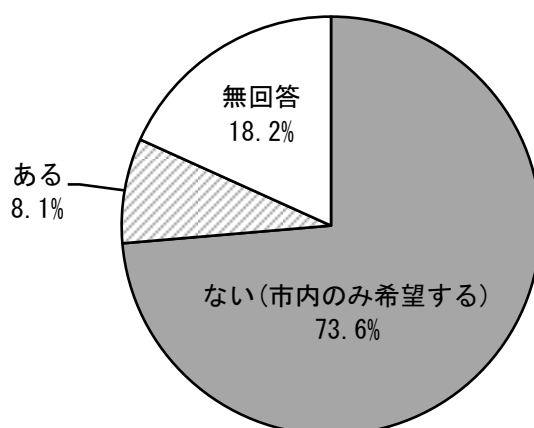
(4) 教育・保育事業を利用したい場所

【問7で1つでも「5. 利用希望はない」以外を選んだ方（1つ以上利用したい事業がある方）にうかがいます。】

問7-1 教育・保育事業を利用したい場所は、市内以外の市町村のご希望はありますか。ご希望の場合は具体的な市町村名もお答えください。（当てはまるもの1つに○）

市内以外の市町村で教育・保育事業を利用したい場所は、「ない（市内のみ希望する）」が73.6%、「ある」が8.1%となっています。

n=296



【市町村名】

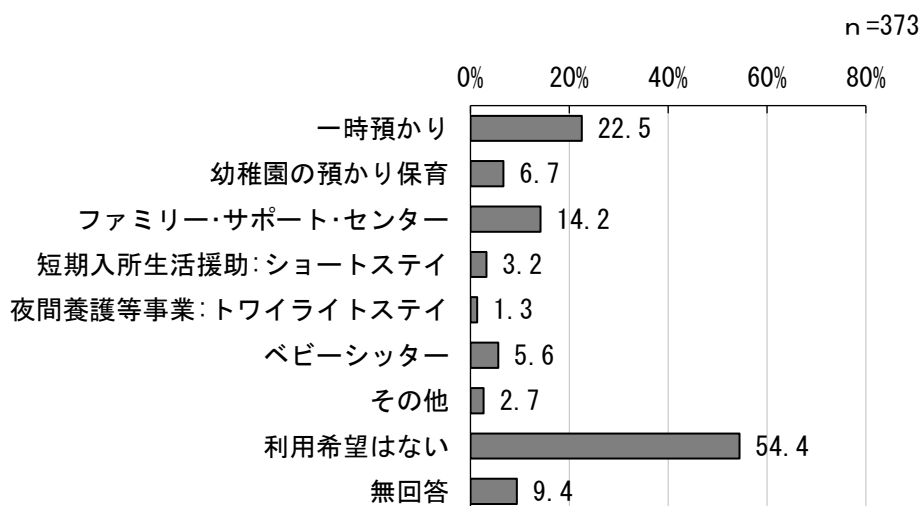
顓娃／川辺／川辺町／知覧町／南さつま市／顓娃町／鹿児島市／枕崎市

4 お子さんの「不定期」な教育・保育の利用状況について

(1) 「不定期に」利用したい一時預かり事業の有無

問8 宛名のお子さんについて、今後「不定期に」利用したい一時預かり事業はありますか。
(当てはまるものすべてに○)

今後、不定期に利用したい一時預かり事業の有無は、「利用希望はない」が 54.4%と最も高く、次いで「一時預かり」が 22.5%、「ファミリー・サポート・センター」が 14.2%、「幼稚園の預かり保育」が 6.7%となっています。

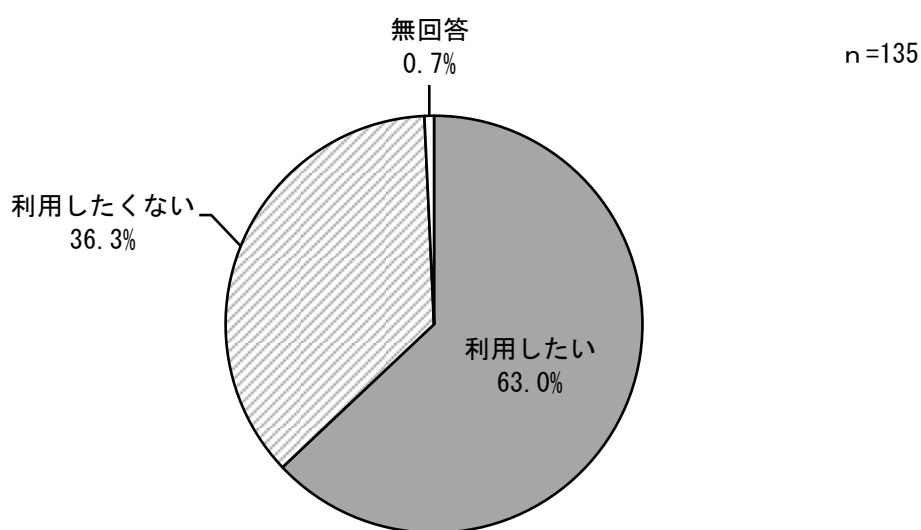


(2) 一時預かり事業の日曜日の利用有無

【問8で「1～7」を選んだ方にうかがいます。】

問8-1 選択された一時預かり事業について、日曜日に利用したいとお考えですか。(当てはまるもの1つに○)

選択された一時預かり事業の日曜日の利用意向は、「利用したい」が 63.0%、「利用したくない」が 36.3%となっています。

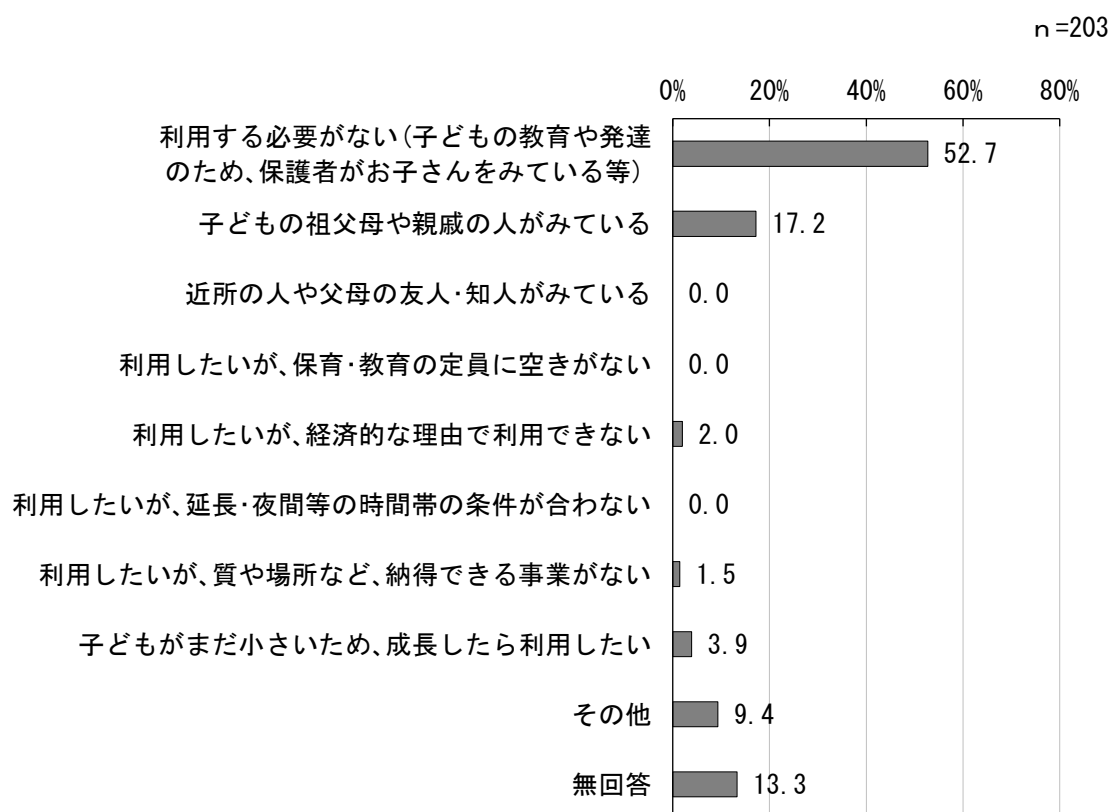


(3) 一時預かり事業の利用を希望しない理由

【問8で「8」を選んだ方にうかがいます。】

問8-2 一時預かり事業の利用を希望しない理由は何ですか。(当てはまるもの1つに○)

一時預かり事業の利用を希望しない理由は、「利用する必要がある(子どもの教育や発達のため、保護者がお子さんをみている等)」が52.7%と最も高く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみている」が17.2%、「子どもがまだ小さいため、成長したら利用したい」が3.9%となっています。



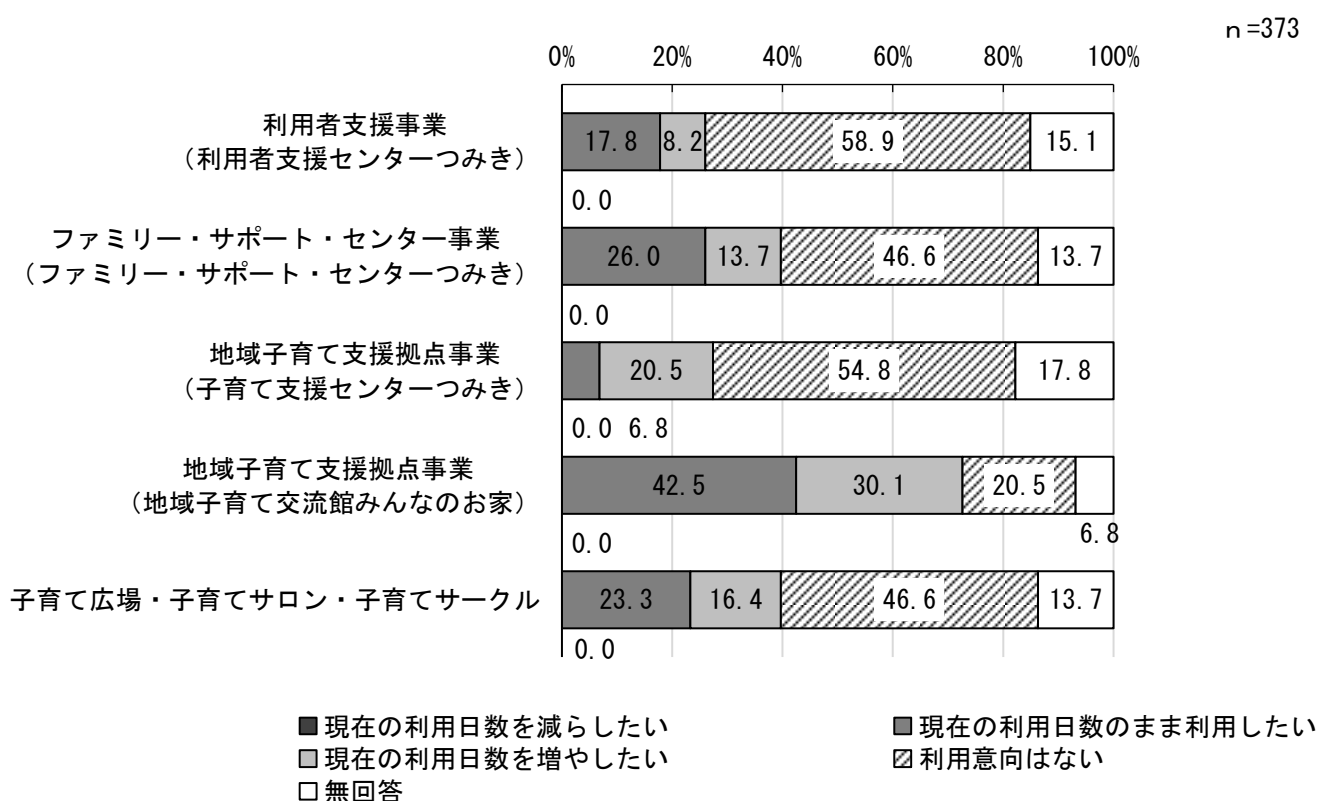
5 お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について

(1) 地域子育て支援事業の利用希望

問9 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援策の利用希望はありますか。下記の事業について、どの程度利用したいかお答えください。現在利用しておらず、新たに利用したい方は「3」をお選びください。(それぞれ当てはまるもの1つに○)

現在の地域子育て支援策の利用希望について、『現在の利用日数のまま利用したい』割合は、「地域子育て支援拠点事業(地域子育て交流館みんなのお家)」が42.5%と最も高く、次いで「ファミリー・サポート・センター事業(ファミリー・サポート・センターつみき)」が26.0%となっています。

『現在の利用日数を増やしたい』割合は、「地域子育て支援拠点事業(地域子育て交流館みんなのお家)」が30.1%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業(子育て支援センターつみき)」が20.5%となっています。

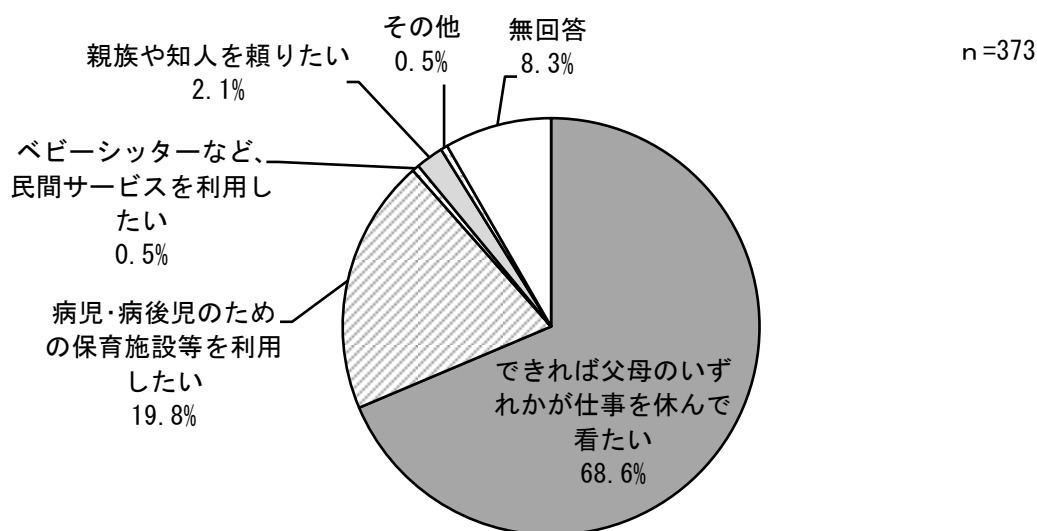


6 お子さんの病気の際の対応について

(1) お子さんが病気やけがの際に希望する対応

問 1 0 宛名のお子さんが病気やけがの際、どのように対応することを希望しますか。(当てはまるもの1つに○)

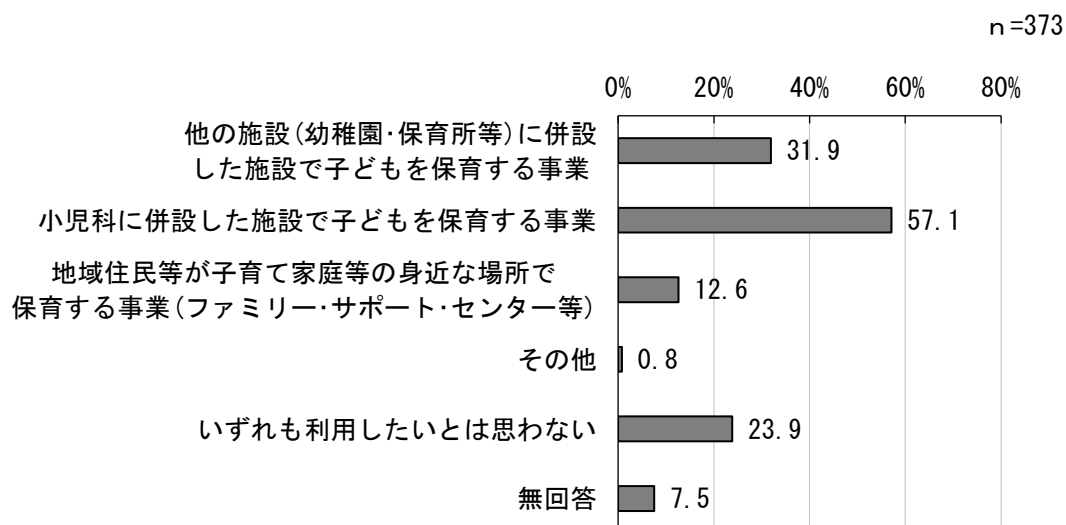
子どもが病気やけがの際に希望する対応は、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」が68.6%と最も高く、次いで「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」が19.8%、「親族や知人を頼りたい」が2.1%となっています。



(2) 病児・病後児保育の利用意向

問 1 1 今後、宛名のお子さんが病気やけがの際、利用したい病児・病後児のための保育施設等がありますか。(当てはまるものすべてに○)

子どもが病気やけがの際、利用したい病児・病後児保育施設の利用意向は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が57.1%と最も高く、次いで「他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」が31.9%、「いずれも利用したいとは思わない」が23.9%となっています。

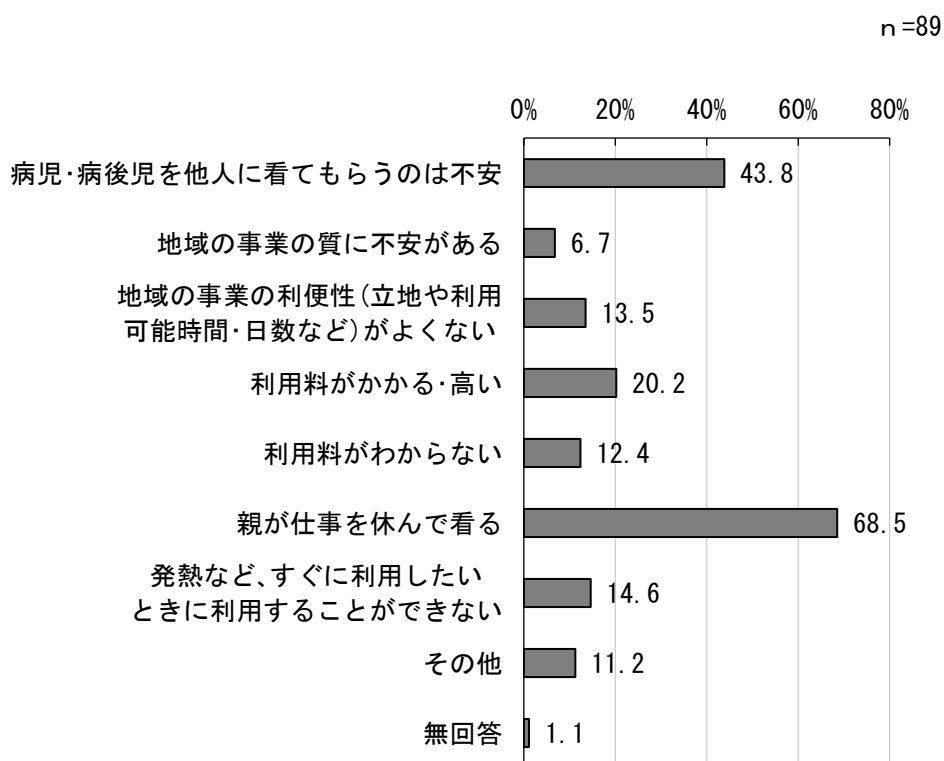


(3) 保育施設を利用したいと思わない理由

【問 1 1 で「5」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 1 - 1 病児・病後児のための保育施設を利用したいと思わない理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

保育施設を利用したいと思わない理由は、「親が仕事を休んで見る」が 68.5%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 43.8%、「利用料がかかる・高い」が 20.2%となっています。

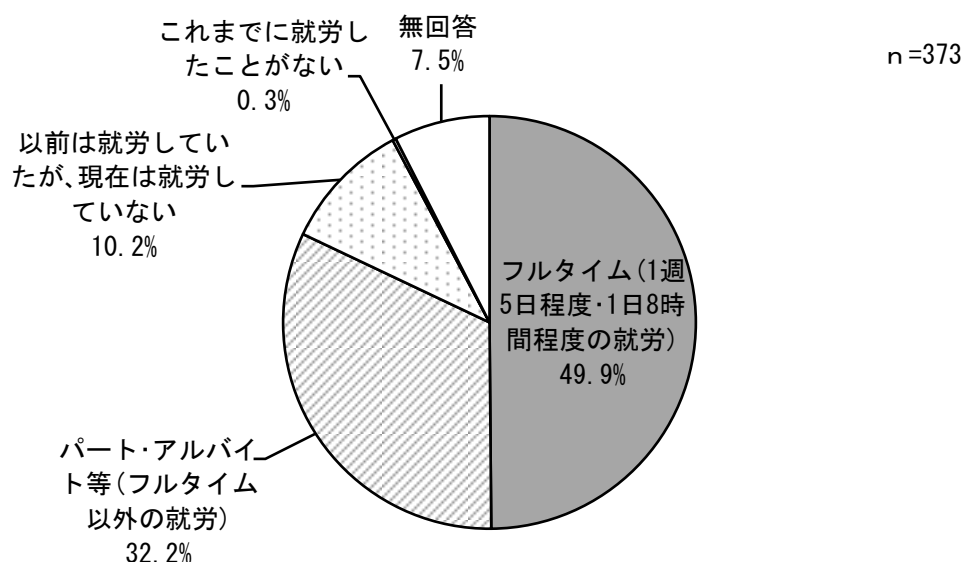


7 保護者の就労状況・職場の両立支援について

(1) 母親の就労形態

問 1 2 就労形態についてお答えください。(当てはまるもの1つに○)

母親の就労形態は、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が49.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)」が32.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.2%、「これまでに就労したことがない」が0.3%となっています。

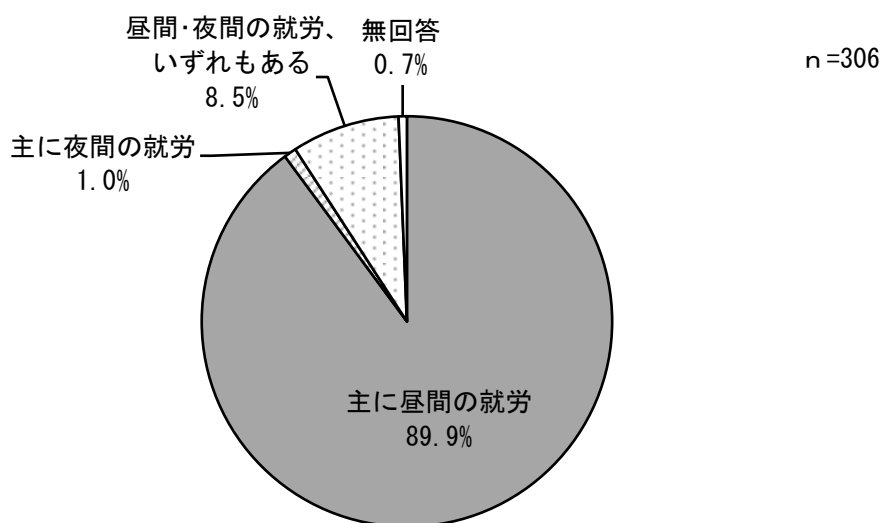


(2) 母親の就労時間のパターン

【問 1 2 で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 2 - 1 普段の就労時間帯について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの1つに○)

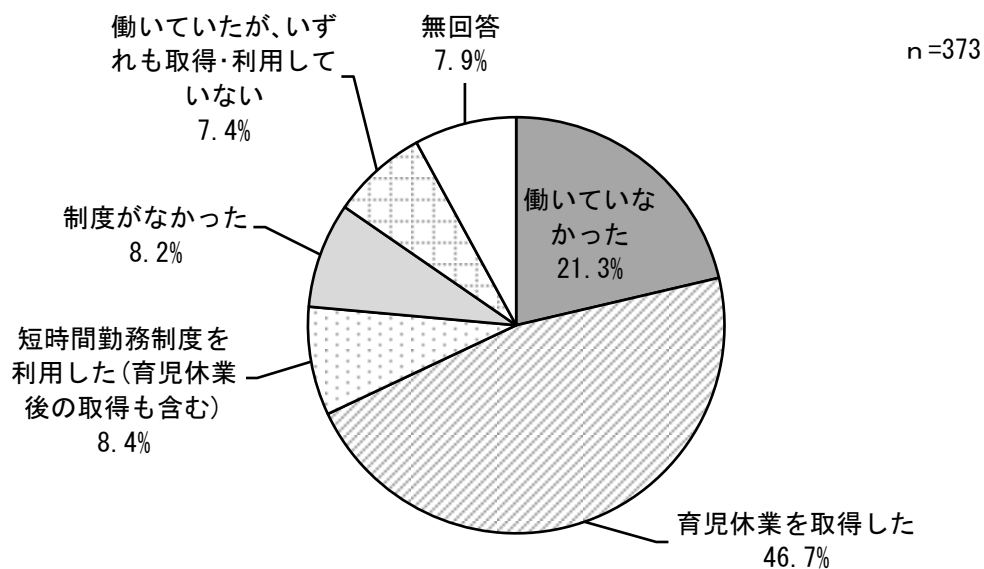
普段の就労時間帯で最も多いパターンは、「主に昼間の就労」が89.9%と最も高く、次いで「昼間・夜間の就労いずれもある」が8.5%、「主に夜間の就労」が1.0%となっています。



(3) 母親の育児休業制度・短時間勤務制度の取得状況

問 1 3 宛名のお子さんが生まれたとき、育児休業制度または短時間勤務制度を利用しましたか。(当てはまるものすべてに○)

子どもが生まれたときの育児休業制度・短時間勤務制度の取得状況は、「育児休業を取得した」が46.7%と最も高く、次いで「働いていなかった」が21.3%、「短時間勤務制度を利用した(育児休業後の取得も含む)」が8.4%となっています。

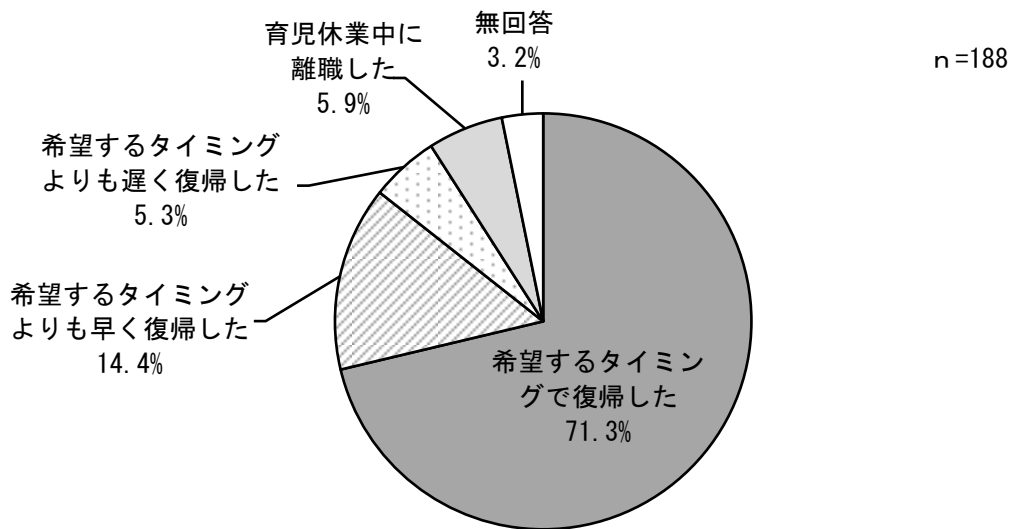


(4) 母親の育児休暇後の職場復帰の有無

【問13で「2」を選んだ方にうかがいます。】

問13-1 育児休業後、職場に復帰しましたか。(当てはまるもの1つに○)

育児休業後の職場復帰の有無は、「希望するタイミングで復帰した」が71.3%と最も高く、次いで「希望するタイミングよりも早く復帰した」が14.4%、「育児休業中に離職した」が5.9%、「希望するタイミングよりも遅く復帰した」が5.3%となっています。



【早く復帰した理由】(多数意見を中心に一部抜粋)

- 姉が保育園にいるタイミングで下の子も保育園に入れるように。
- 産後8週で復帰しないといけなかったため。
- 職場の人員不足。
- 経済的理由。
- 仕事の特性上、年度始めからの復帰を打診されたため。

【遅く復帰した理由】(多数意見を中心に一部抜粋)

- 保育園の空きがなかったため。
- 希望の保育園に入れなかったから。
- 病休のため。

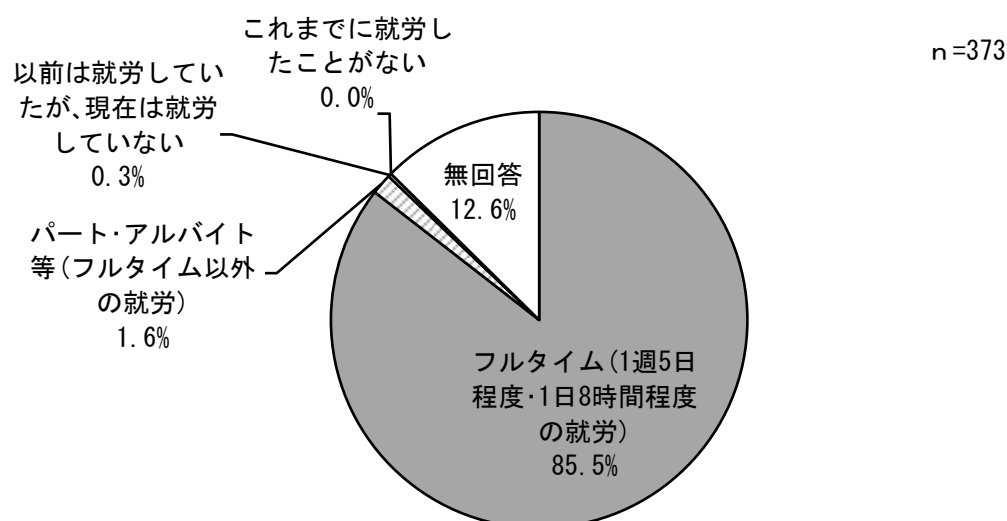
【育児休業中に離職した理由】(多数意見を中心に一部抜粋)

- 子供の病気。
- 残業時間が多く、勤務距離の関係。
- シフトが合わなかった。
- 戻れなかった。
- 休みが取りやすい職場への変更。
- 転職したため。

(5) 父親の就労形態

問 1 4 就労形態についてお答えください。(当てはまるもの 1 つに○)

父親の就労形態は、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が 85.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)」が 1.6%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 0.3%となっています。

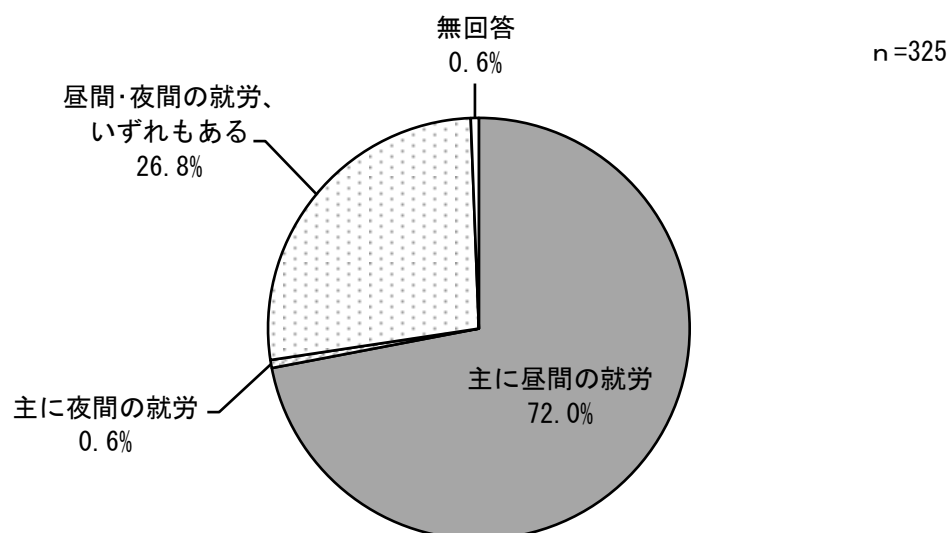


(6) 父親の就労時間のパターン

【問 1 4 で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 4 - 1 普段の就労時間帯について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの 1 つに○)

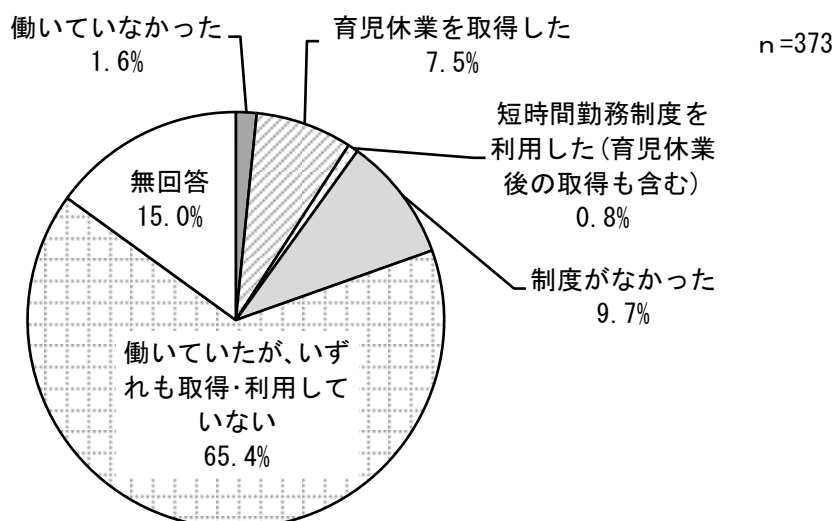
普段の就労時間帯で最も多いパターンは、「主に昼間の就労」が 72.0%と最も高く、次いで「昼間・夜間の就労、いずれもある」が 26.8%、「主に夜間の就労」が 0.6%となっています。



(7) 父親の育児休業制度・短時間勤務制度の取得状況

問 1 5 宛名のお子さんが生まれたとき、育児休業制度または短時間勤務制度を利用しましたか。(当てはまるものすべてに○)

子どもが生まれたときの育児休業制度・短時間勤務制度の取得状況は、「働いていたが、いずれも取得・利用していない」が65.4%と最も高く、次いで「制度がなかった」が9.7%、「育児休業を取得した」が7.5%となっています。

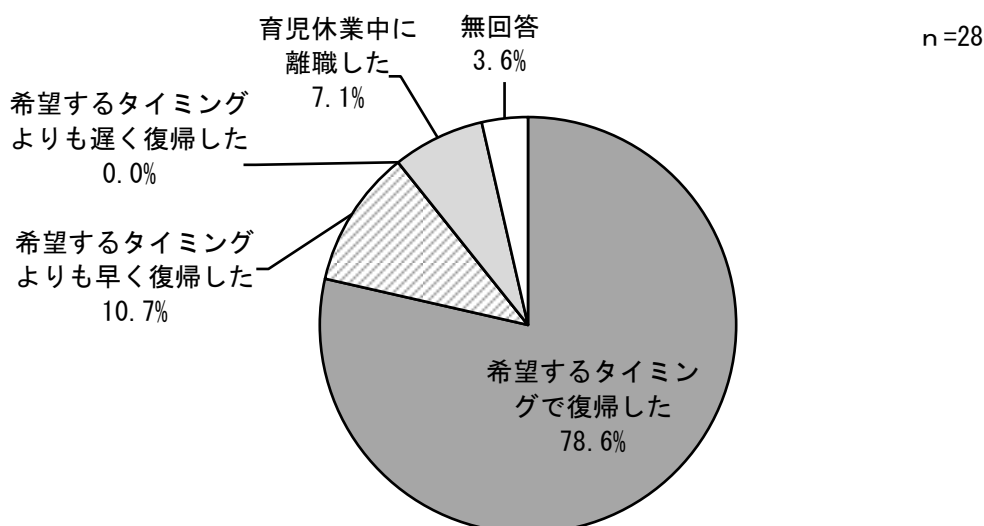


(8) 父親の育児休暇後の職場復帰の有無

【問 1 5 で「2」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 5 - 1 育児休業後、職場に復帰しましたか。(当てはまるもの1つに○)

育児休業後の職場復帰の有無は、「希望するタイミングで復帰した」が78.6%と最も高く、次いで「希望するタイミングよりも早く復帰した」が10.7%、「育児休業中に離職した」が7.1%となっています。



【早く復帰した理由】(多数意見を中心に一部抜粋)

- 職場より早く復帰するよう言われたため。
- 職場の意向が強かったため。

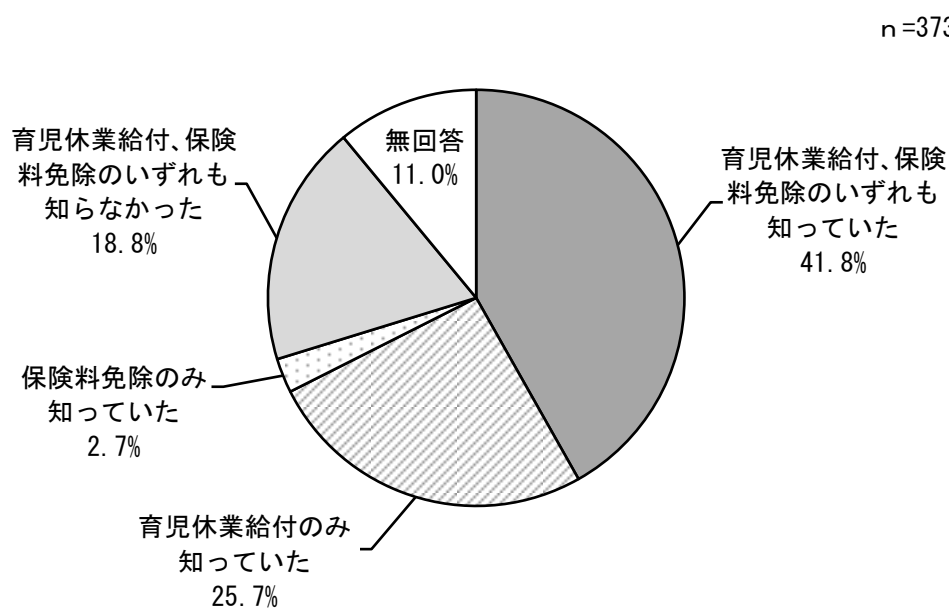
(9) 育児休業給付・保険料免除制度の認知度

問 1 6 育児休業給付※ 1、保険料免除※ 2について知っていましたか。(当てはまるもの 1 つに○)

※ 1 子どもが原則 1 歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み(一定の要件を満たす場合は 1 歳 6 か月)

※ 2 子どもが満 3 歳になるまでの育児休業等の期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組み

育児休業給付・保険料免除制度の認知については、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 41.8%と最も高く、次いで「育児休業給付のみ知っていた」が 25.7%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 18.8%、「保険料免除のみ知っていた」が 2.7%となっています。



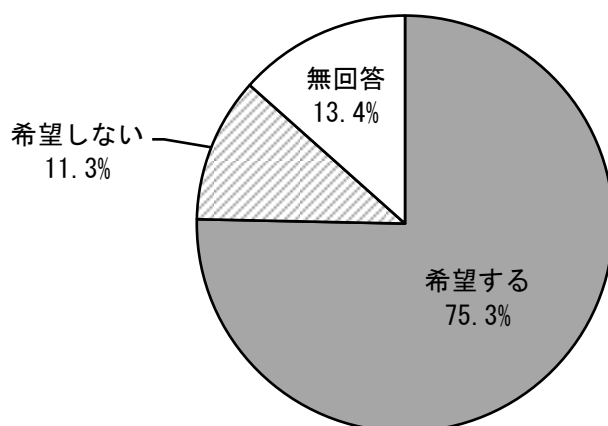
(10) 職場復帰の意向

問 1 7 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、お子さんを預けて職場復帰を希望しますか。(それぞれ当てはまるもの1つに○)

【母親】

母親の職場復帰の意向は、「希望する」が75.3%、「希望しない」が11.3%となっています。

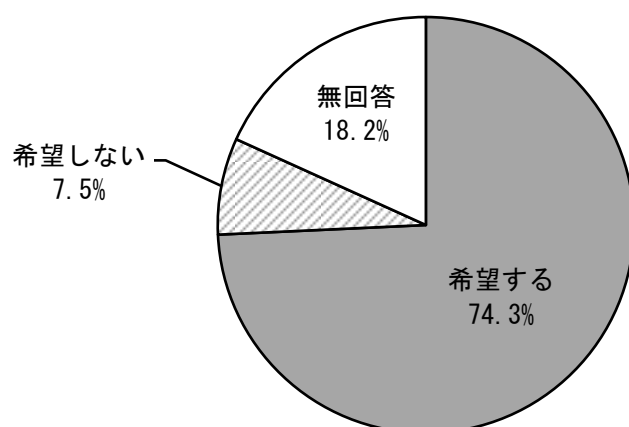
n=373



【父親】

父親の職場復帰の意向は、「希望する」が74.3%、「希望しない」が7.5%となっています。

n=373



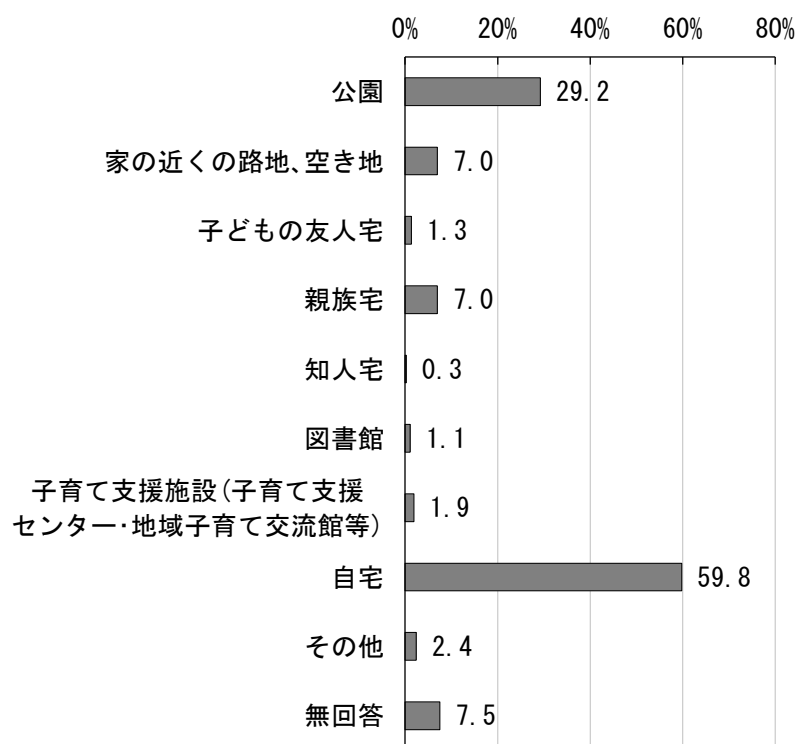
8 子どもの居場所

(1) 保育施設以外の遊び場所

問 1 8 お子さんとは、どこで遊ぶことが多いですか。(当てはまるもの一つに○)

子どもの遊び場所は、「自宅」が 59.8%と最も高く、次いで「公園」が 29.2%、「家の近くの路地、空き地」「親族宅」がそれぞれ 7.0%となっています。

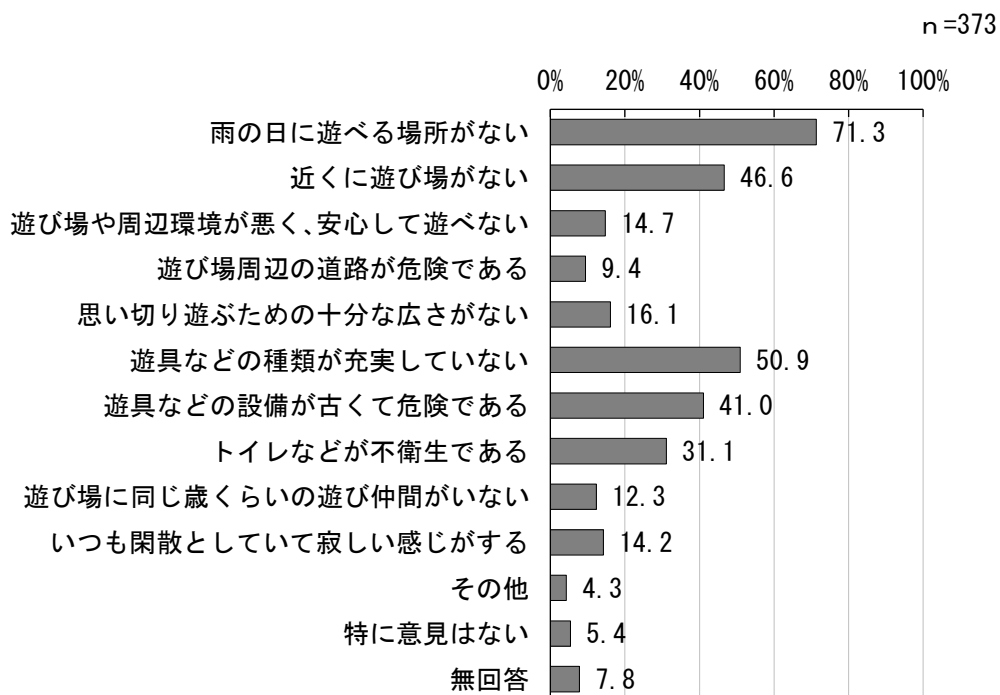
n=373



(2) 子どもの遊び場で困ること

問 19 子どもの遊び場で困ること・困ったことは何ですか。(当てはまるものすべてに○)

子どもの遊び場で困ることは、「雨の日に遊べる場所がない」が71.3%と最も高く、次いで「遊具などの種類が充実していない」が50.9%、「近くに遊び場がない」が46.6%、「遊具などの設備が古くて危険である」が41.0%となっています。

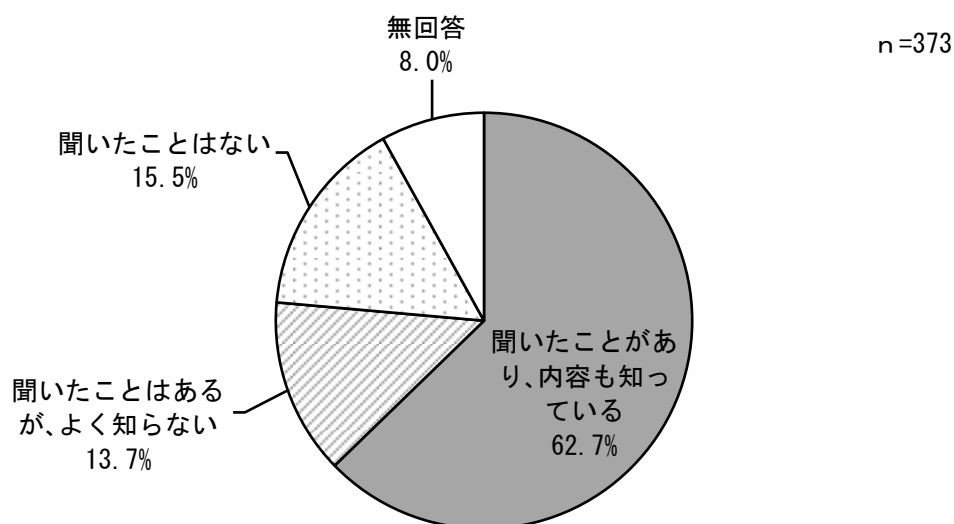


9 ヤングケアラー関係

(1) ヤングケアラーの認知

問20 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(当てはまるもの一つに○)

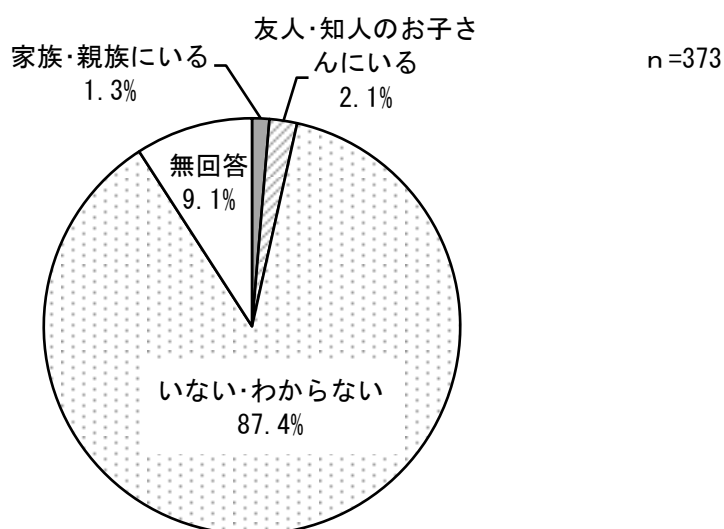
ヤングケアラーという言葉の認知については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が62.7%と最も高く、次いで「聞いたことはない」が15.5%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が13.7%となっています。



(2) 周囲でのヤングケアラーの有無

問21 家族や親族、または友人・知人のお子さんにヤングケアラーと思われるお子さんはいますか。(当てはまるもの一つに○)

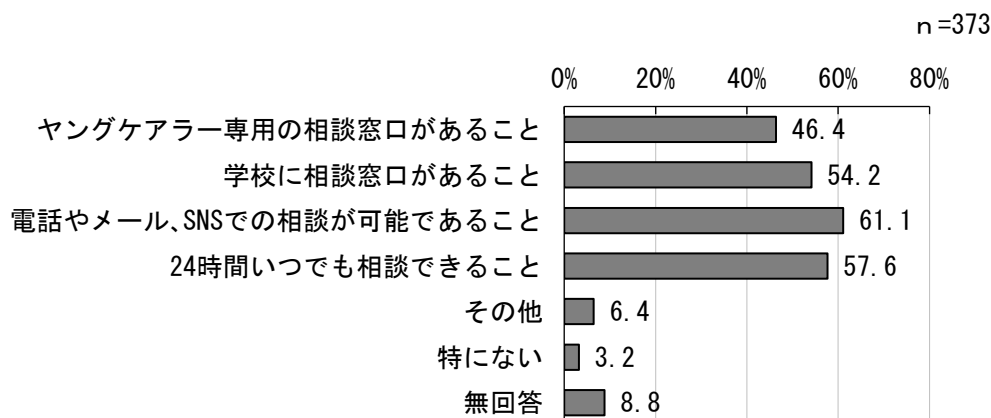
周囲でのヤングケアラーの有無は、「いない・わからない」が87.4%と最も高く、次いで「友人・知人のお子さんにいる」が2.1%、「家族・親族にいる」が1.3%となっています。



(3) ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりに必要なこと

問22 ヤングケアラーに関して、相談しやすい環境づくりとして必要なことはどんなことだと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください（複数回答可）。

ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりに必要なことは、「電話やメール、SNSでの相談が可能であること」が61.1%と最も高く、次いで「24時間いつでも相談できること」が57.6%、「学校に相談窓口があること」が54.2%、「ヤングケアラー専用の相談窓口があること」が46.4%となっています。

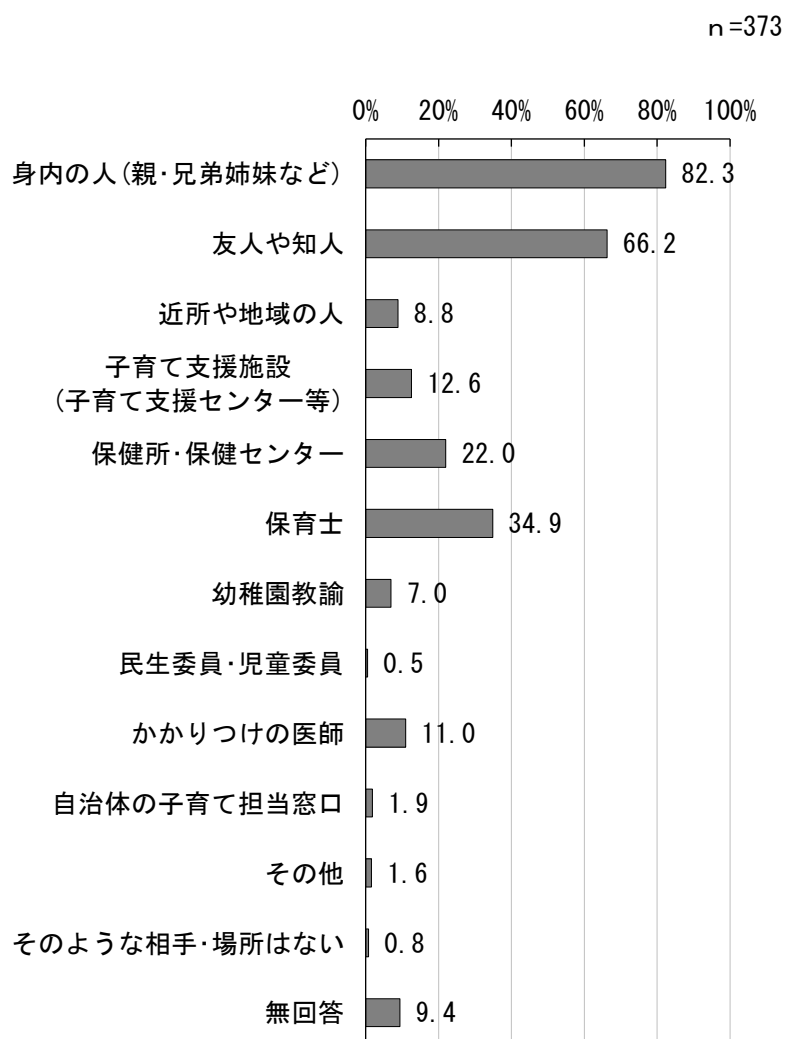


10 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所

問23 子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手はどなた（場所はどこ）ですか。（当てはまるものすべてに○）

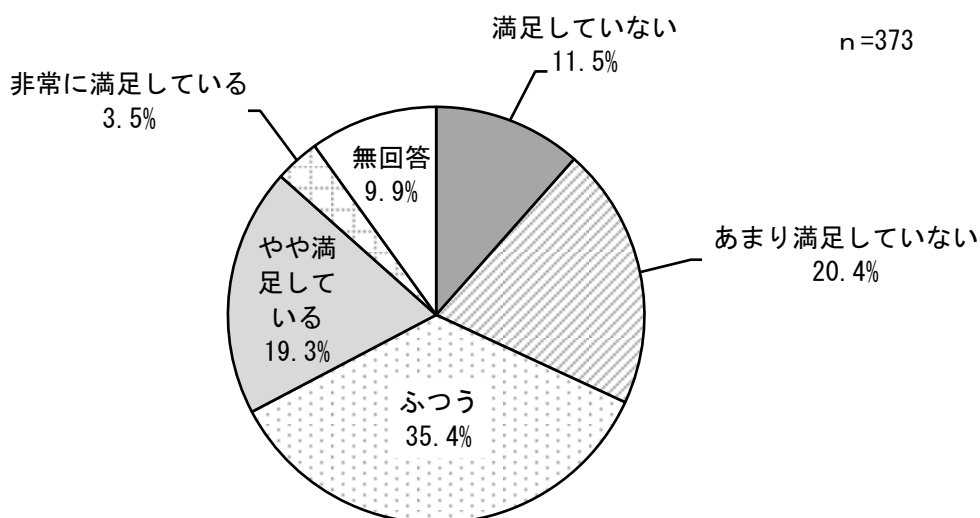
子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手や場所は、「身内の人（親・兄弟姉妹など）」が82.3%と最も高く、次いで「友人や知人」が66.2%、「保育士」が34.9%となっています。



(2) 子育て環境や支援の満足度

問24 お住まいの地域における、子育て環境や支援への満足度についてお答えください。
(当てはまるもの1つに○)

地域における子育て環境や支援の満足度は、「ふつう」が35.4%と最も高く、次いで「あまり満足していない」が20.4%、「やや満足している」が19.3%、「満足していない」が11.5%、「非常に満足している」が3.5%となっており、「非常に満足している」「やや満足している」を合わせた『満足している』は22.8%、「満足していない」「あまり満足していない」を合わせた『満足していない』は31.9%となっています。



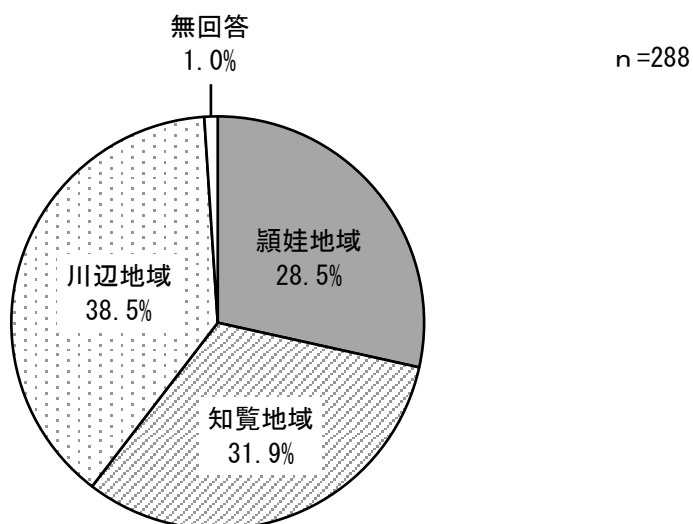
Ⅲ 就学児童のいる世帯の調査結果

1 お住まいの地域について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地域をお答えください。(当てはまるもの1つに○)

回答者の居住地域は、「川辺地域」が38.5%と最も多く、次いで「知覧地域」が31.9%、「鰐
娃地域」が28.5%となっています。

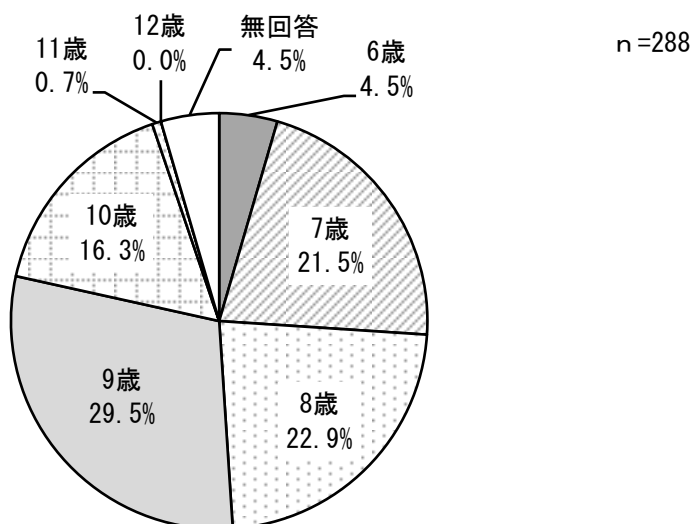


2 お子さんとご家族の状況について

(1) お子さんの年齢

問2 宛名のお子さんの年齢（令和5年4月1日現在）をお答えください。（当てはまるもの1つに○）

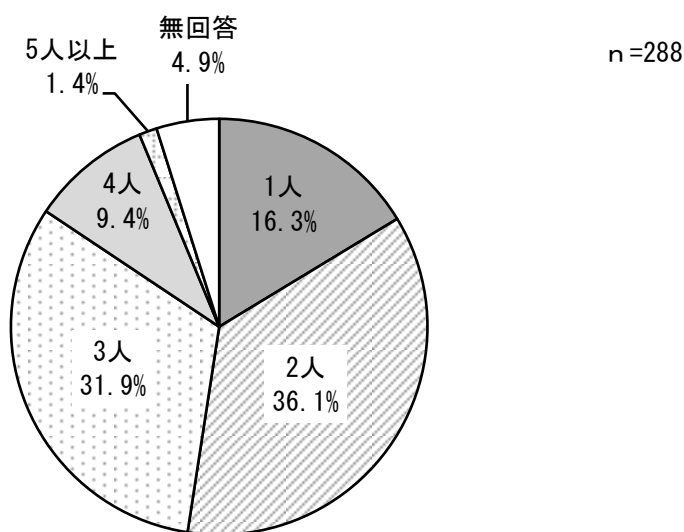
宛名の子どもの年齢は、「9歳」が29.5%と最も高く、次いで「8歳」が22.9%、「7歳」が21.5%、「10歳」が16.3%、「6歳」が4.5%、「11歳」が0.7%となっています。



(2) お子さんのきょうだいの数

問3 宛名のお子さんのきょうだいの数（宛名のお子さんを含めた人数）をお答えください。（当てはまるもの1つに○）

宛名の子どものきょうだいの数は、「2人」が36.1%と最も高く、次いで「3人」が31.9%、「1人」が16.3%、「4人」が9.4%、「5人以上」が1.4%となっています。

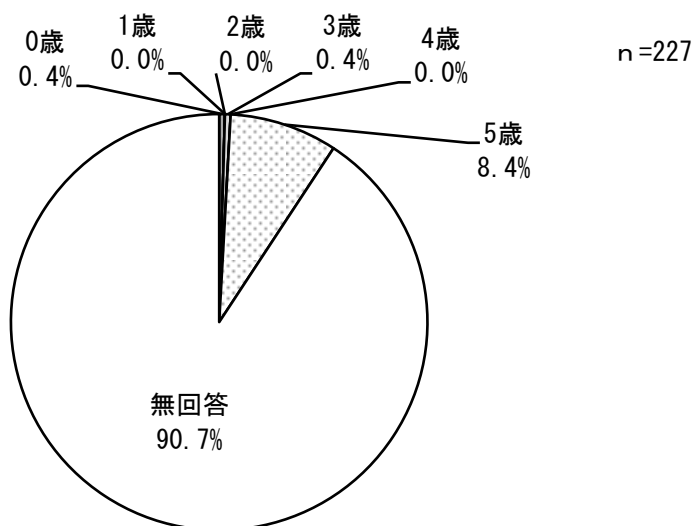


(3) 末子の年齢

【問3で「2～5」を選んだ方にうかがいます。】

問3-1 2人以上お子さんがいらっしゃる場合、末子の子の年齢（令和5年4月1日現在）をお答えください。（当てはまるもの1つに○）

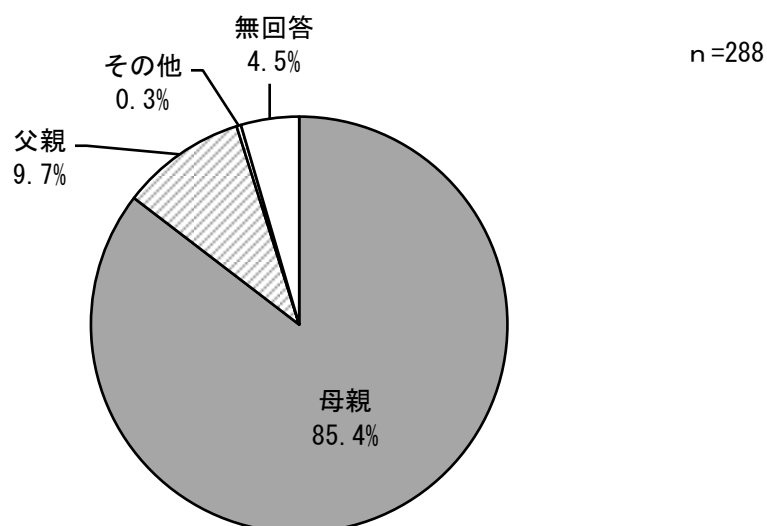
2人以上子供がいる場合の末子の子の年齢は、「5歳」が8.4%、「0歳」「3歳」がそれぞれ0.4%となっています。



(4) 回答者とお子さんの関係

問4 この調査にご回答いただく方はどなたですか。（当てはまるもの1つに○）

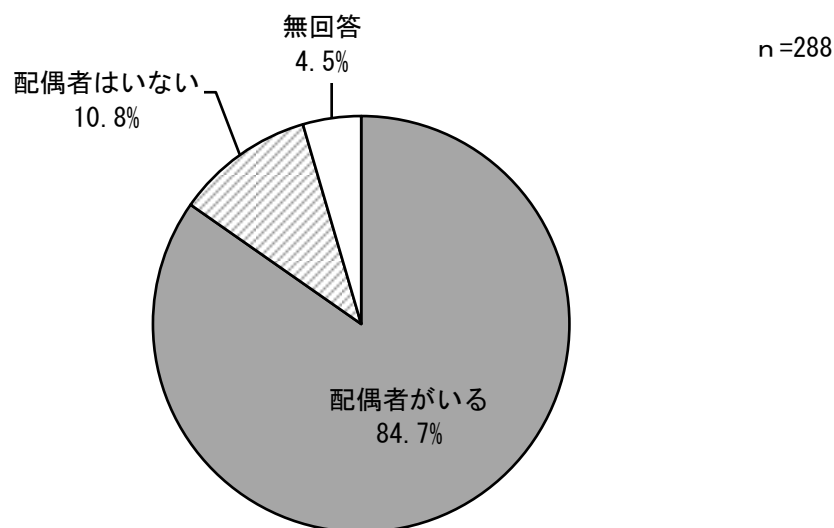
この調査の回答者は、「母親」が85.4%、「父親」が9.7%、「その他」が0.3%となっています。



(5) 回答者の配偶関係

問5 この調査にご回答いただく方の配偶関係についてお答えください。(当てはまるもの1つに○)

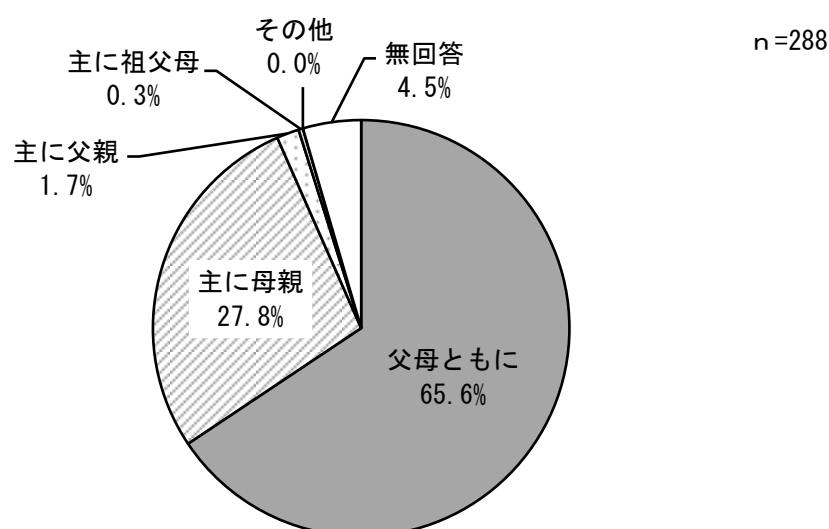
回答者の配偶関係は、「配偶者がいる」が84.7%、「配偶者はいない」が10.8%となっています。



(6) お子さんの子育てを主に行っている方

問6 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っている方をお答えください。(当てはまるもの1つに○)

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」が65.6%と最も高く、次いで「主に母親」が27.8%、「主に父親」が1.7%、「主に祖父母」が0.3%となっています。

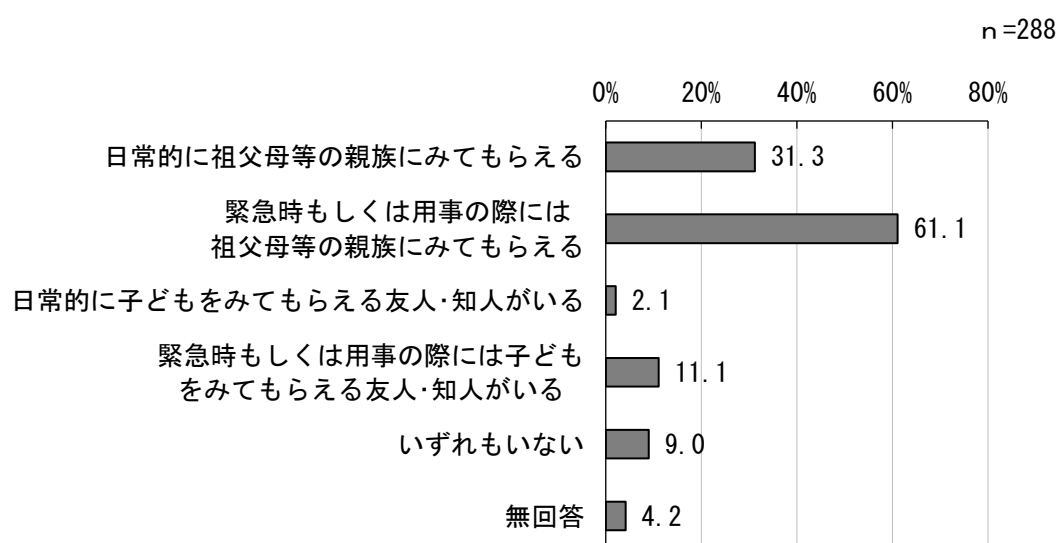


3 子どもの育ちを巡る環境について

(1) お子さんをみてもらえる親族・知人の有無

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(当てはまるものすべてに○)

日頃、宛名の子どもをみてもらえる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が61.1%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が31.3%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が11.1%となっています。

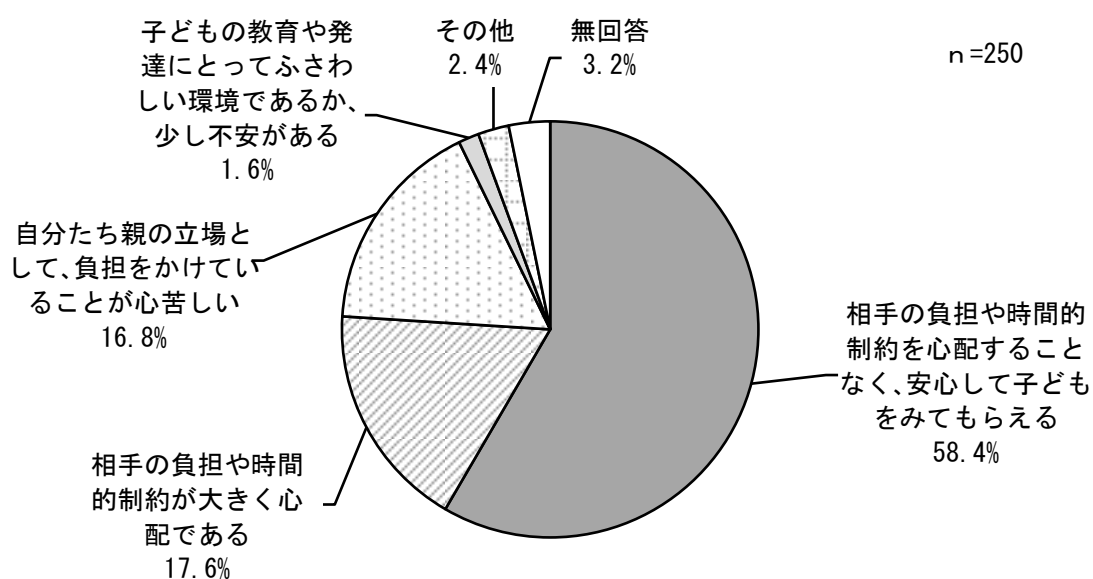


(2) お子さんをみてもらっている状況

【問7で「1～4」を選んだ方にうかがいます。】

問7-1 親族や知人（お相手）にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。（当てはまるもの1つに○）

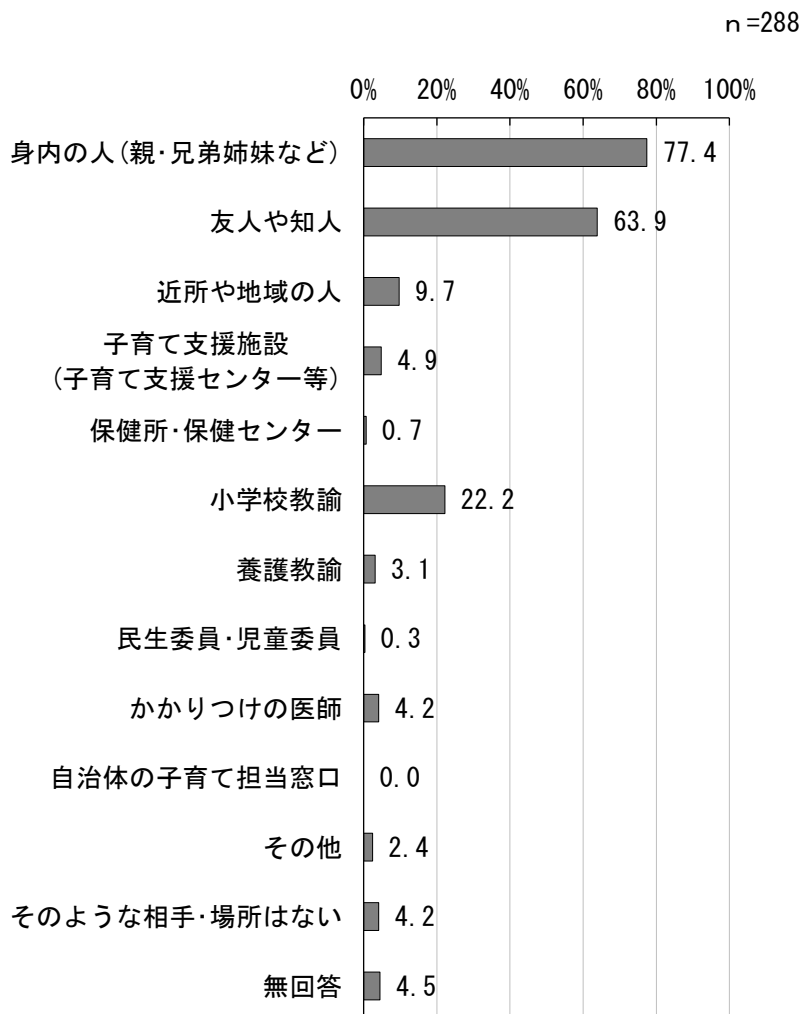
親族や知人（お相手）に子どもをみてもらっている状況については、「相手の負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 58.4%と最も高く、次いで「相手の負担や時間的制約が大きく心配である」が 17.6%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 16.8%、「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある」が 1.6%となっています。



(3) 子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所

問8 子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手・場所は誰（どこ）ですか。（当てはまるものすべてに○）

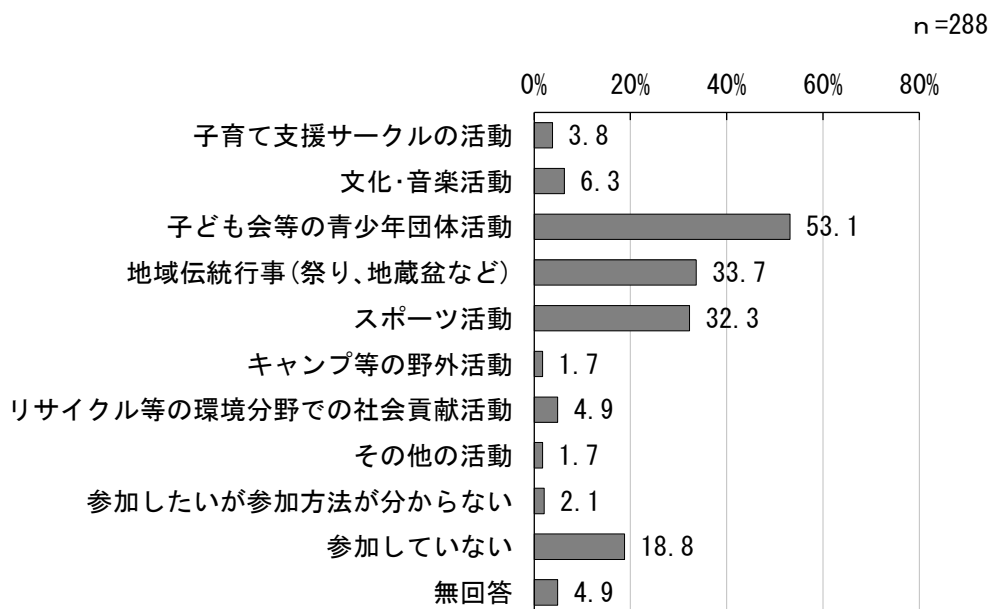
子どものことや子育てについて気軽に相談できる相手や場所は、「身内の人（親・兄弟姉妹など）」が77.4%と最も高く、次いで「友人や知人」が63.9%、「小学校教諭」が22.2%となっています。



(4) 地域の催しへの参加の有無

問9 お子さんは次のような地域での催しへ参加していますか。(当てはまるものすべてに○)

地域での催しへの子どもの参加の有無は、「子ども会等の青少年団体活動」が53.1%と最も高く、次いで「地域伝統行事（祭り、地蔵盆など）」が33.7%、「スポーツ活動」が32.3%となっています。

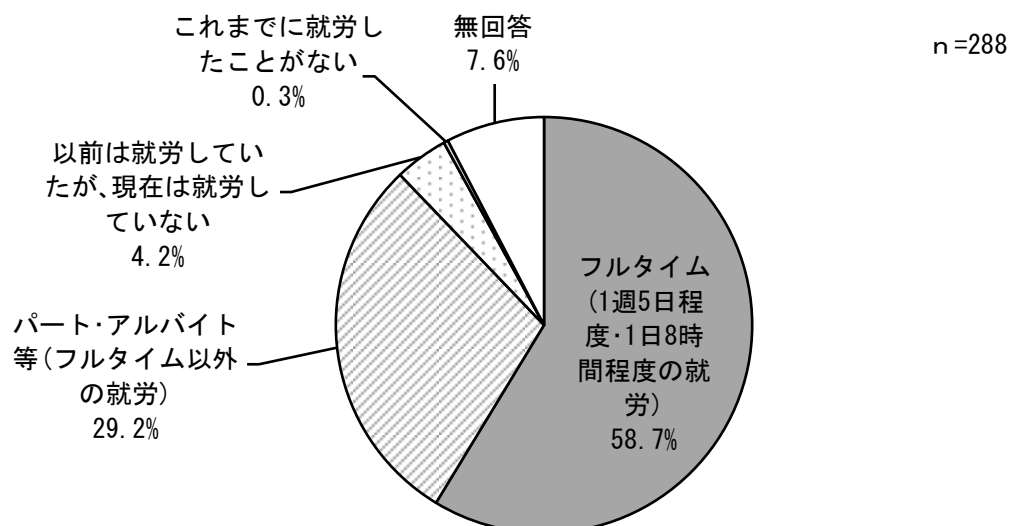


4 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労形態

問10 就労形態についてお答えください。(当てはまるもの1つに○)

母親の就労形態は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が58.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）」が29.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が4.2%、「これまでに就労したことがない」が0.3%となっています。

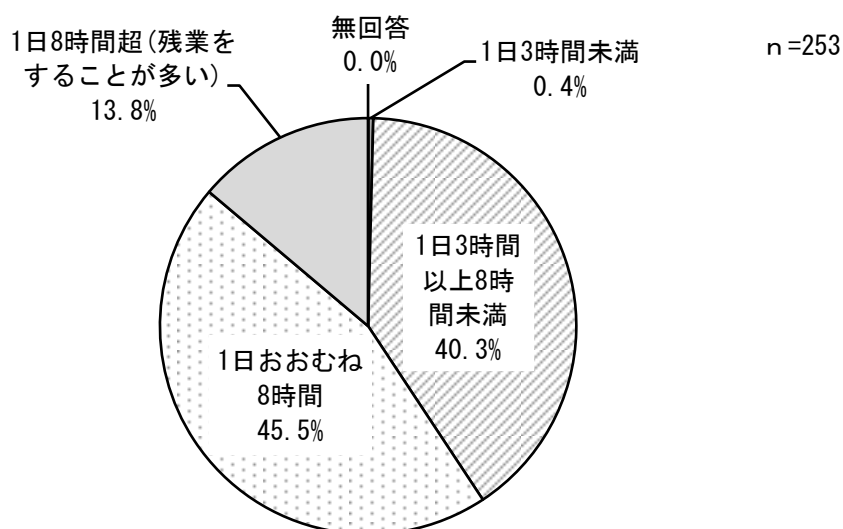


(2) 母親の就労時間のパターン

【問10で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問10-1 普段の就労時間（残業などを含む）について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの1つに○)

普段の就労時間で最も多いパターンは、「1日おおむね8時間」が45.5%と最も高く、次いで「1日3時間以上8時間未満」が40.3%、「1日8時間超（残業をすることが多い）」が13.8%、「1日3時間未満」が0.4%となっています。

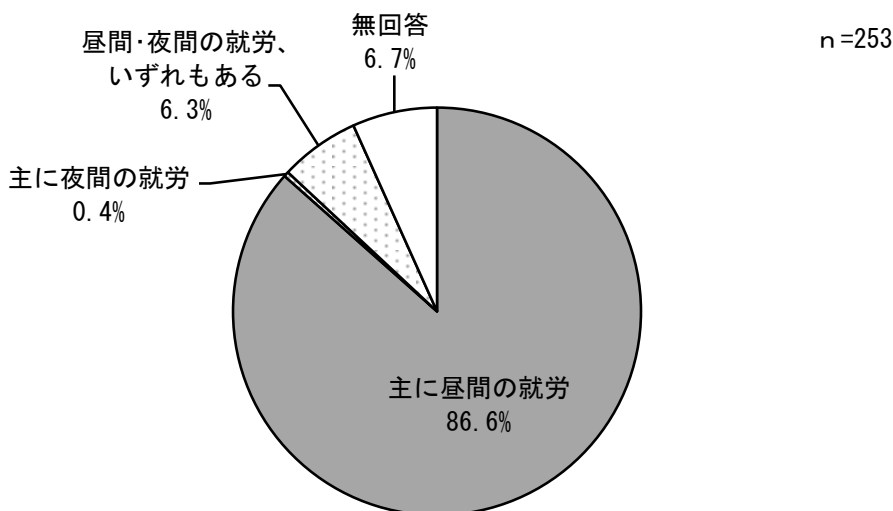


(3) 母親の普段の就労時間帯

【問10で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問10-2 普段の就労時間帯について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの1つに○)

普段の就労時間帯で最も多いパターンは、「主に昼間の就労」が86.6%と最も高く、次いで「昼間・夜間の就労いずれもある」が6.3%、「主に夜間の就労」が0.4%となっています。

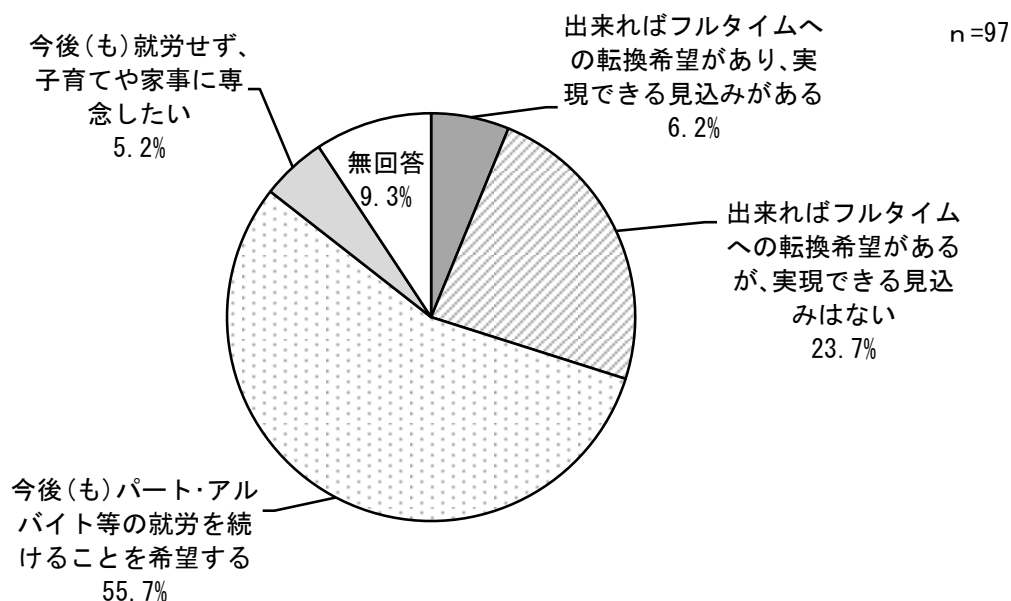


(4) 母親の就労時間の転換

【問10で「2～4」を選んだ方にうかがいます。】

問10-3 今後、フルタイム就労への転換を希望されますか。(当てはまるもの1つに○)

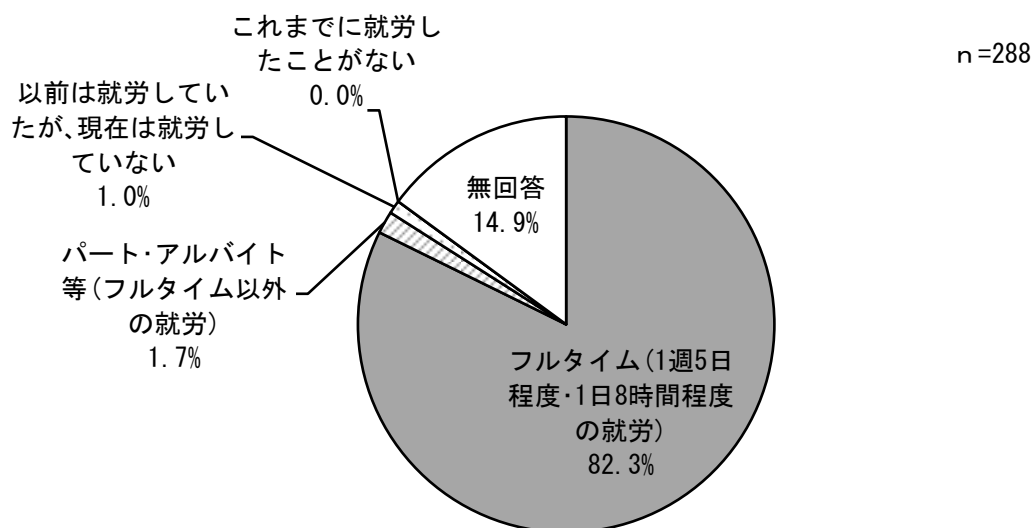
今後のフルタイム就労への転換希望は、「今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」が55.7%と最も高く、次いで「出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」が23.7%、「出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が6.2%、「今後(も)就労せず、子育てや家事に専念したい」が5.2%となっています。



(5) 父親の就労形態

問 1 1 就労形態についてお答えください。(当てはまるもの 1 つに○)

父親の就労形態は、「フルタイム (1 週 5 日程度・1 日 8 時間程度の就労)」が 82.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等 (フルタイム以外の就労)」が 1.7%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 1.0%となっています。

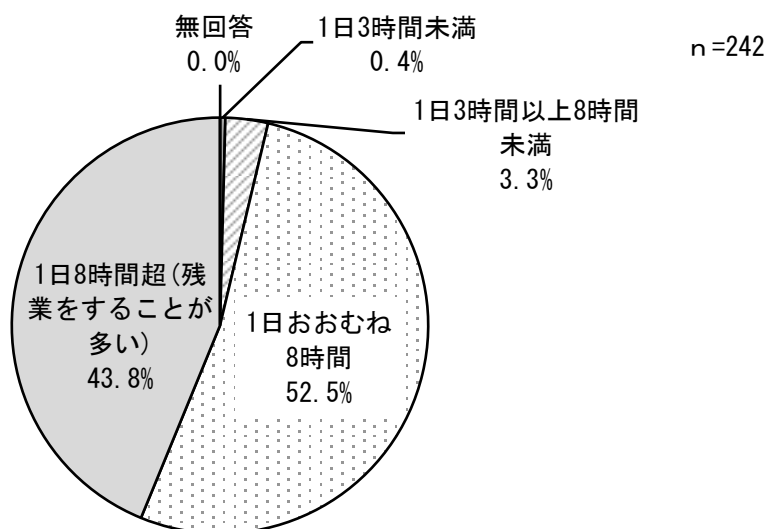


(6) 父親の就労時間のパターン

【問 1 1 で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 1 - 1 普段の就労時間 (残業などを含む) について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの 1 つに○)

普段の就労時間で最も多いパターンは、「1 日のおおむね 8 時間」が 52.5%と最も高く、次いで「1 日 8 時間超 (残業をすることが多い)」が 43.8%、「1 日 3 時間以上 8 時間未満」が 3.3%、「1 日 3 時間未満」が 0.4%となっています。

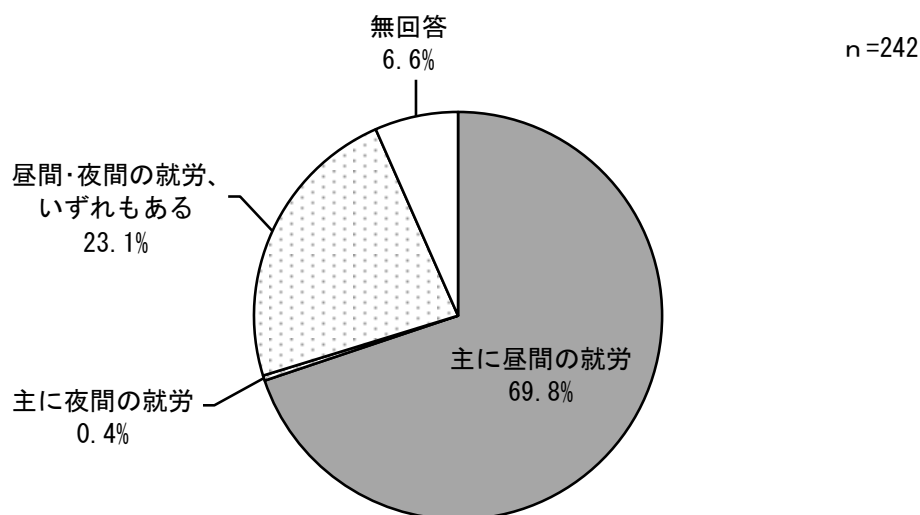


(7) 父親の普段の就労時間帯

【問 1 1 で「1～2」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 1 - 2 普段の就労時間帯について、最も多いパターンをお答えください。(当てはまるもの 1 つに○)

普段の就労時間帯で最も多いパターンは、「主に昼間の就労」が 69.8%と最も高く、次いで「昼間・夜間の就労いずれもある」が 23.1%、「主に夜間の就労」が 0.4%となっています。

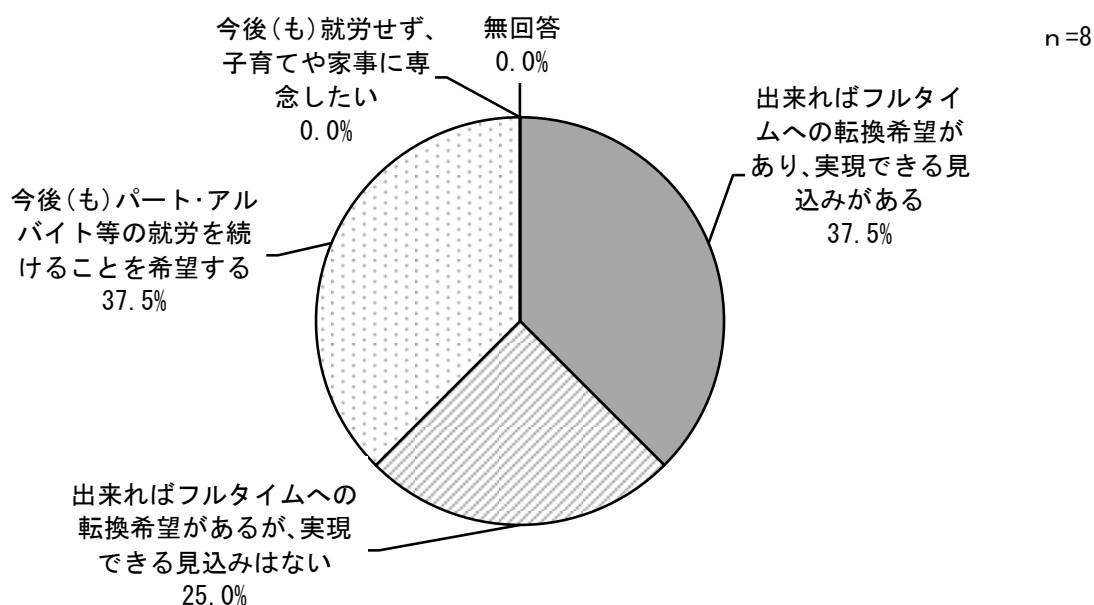


(8) 父親の就労時間の転換

【問 1 1 で「2～4」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 1 - 3 今後、フルタイム就労への転換を希望されますか。(当てはまるもの 1 つに○)

今後のフルタイム就労への転換希望は、「出来ればフルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「今後(も)パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する」がそれぞれ 37.5%と最も高く、次いで「出来ればフルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」が 25.0%となっています。

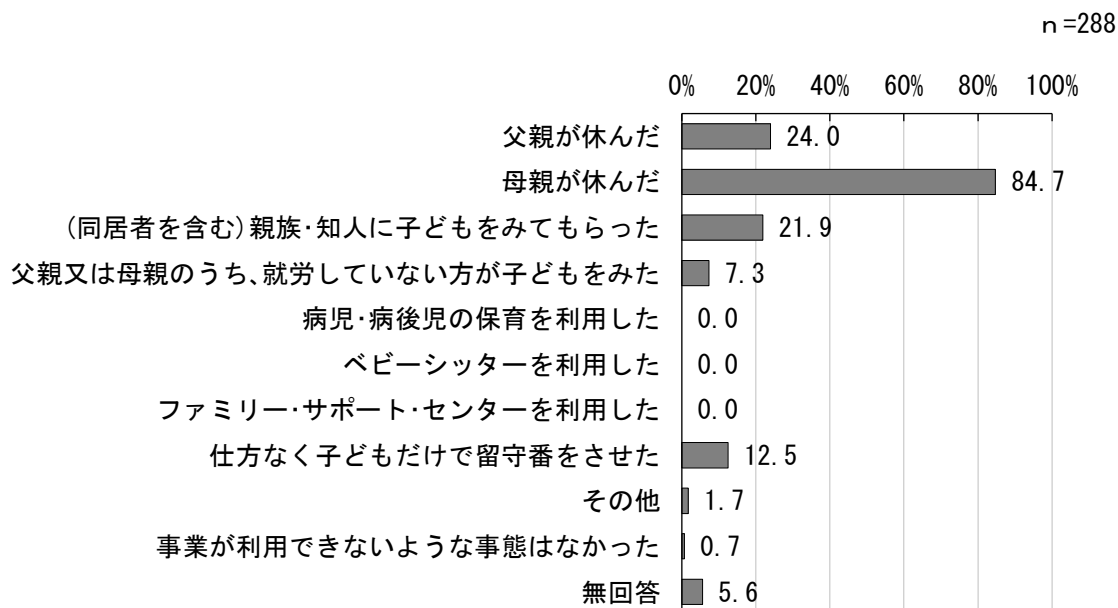


5 お子さんの病気やけがの際の対応について

(1) お子さんが病気やけがの際行った対処方法

問 1 2 宛名のお子さんが病気やけがの際、この1年間に行った対処方法についてお答えください。(当てはまるものすべてに○)

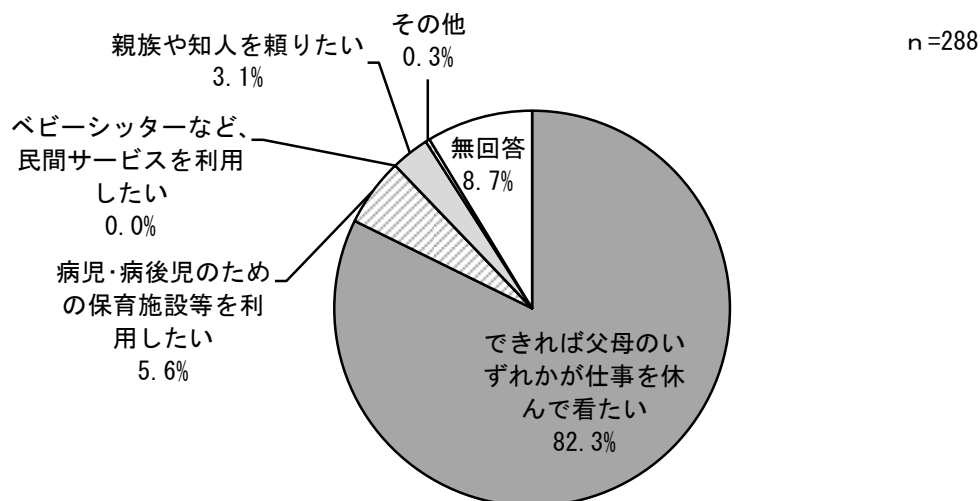
子どもが病気やけがの際、この1年間に行った対処方法は、「母親が休んだ」が84.7%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が24.0%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が21.9%となっています。



(2) お子さんが病気やけがの際に希望する対応

問 1 3 宛名のお子さんが病気やけがの際、どのように対応することを希望しますか。(当てはまるもの1つに○)

子どもが病気やけがの際に希望する対応は、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」が82.3%と最も高く、次いで「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」が5.6%、「親族や知人を頼りたい」が3.1%となっています。

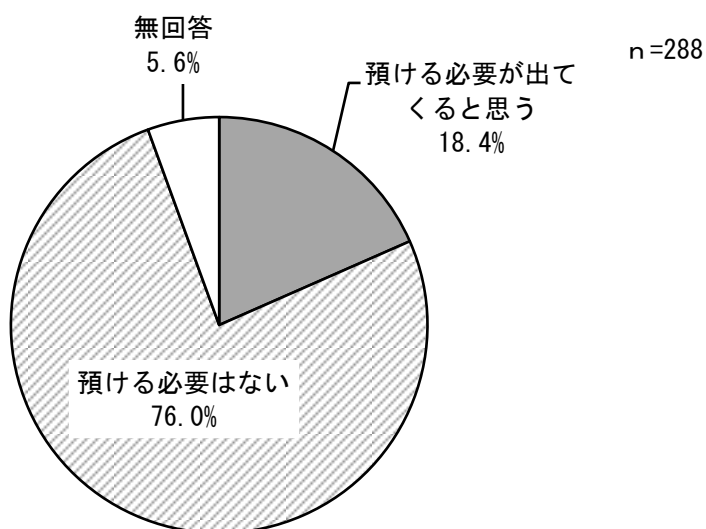


6 お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 保護者が用事の際お子さんを預ける必要性への意思

問 1 4 今後、保護者の用事（冠婚葬祭や家族の育児疲れ、病気等）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外に預ける必要が出てくると思いますか。（当てはまるものに○）

今後、保護者の用事の際子どもを預ける必要性については、「預ける必要はない」が76.0%、「預ける必要が出てくると思う」が18.4%となっています。



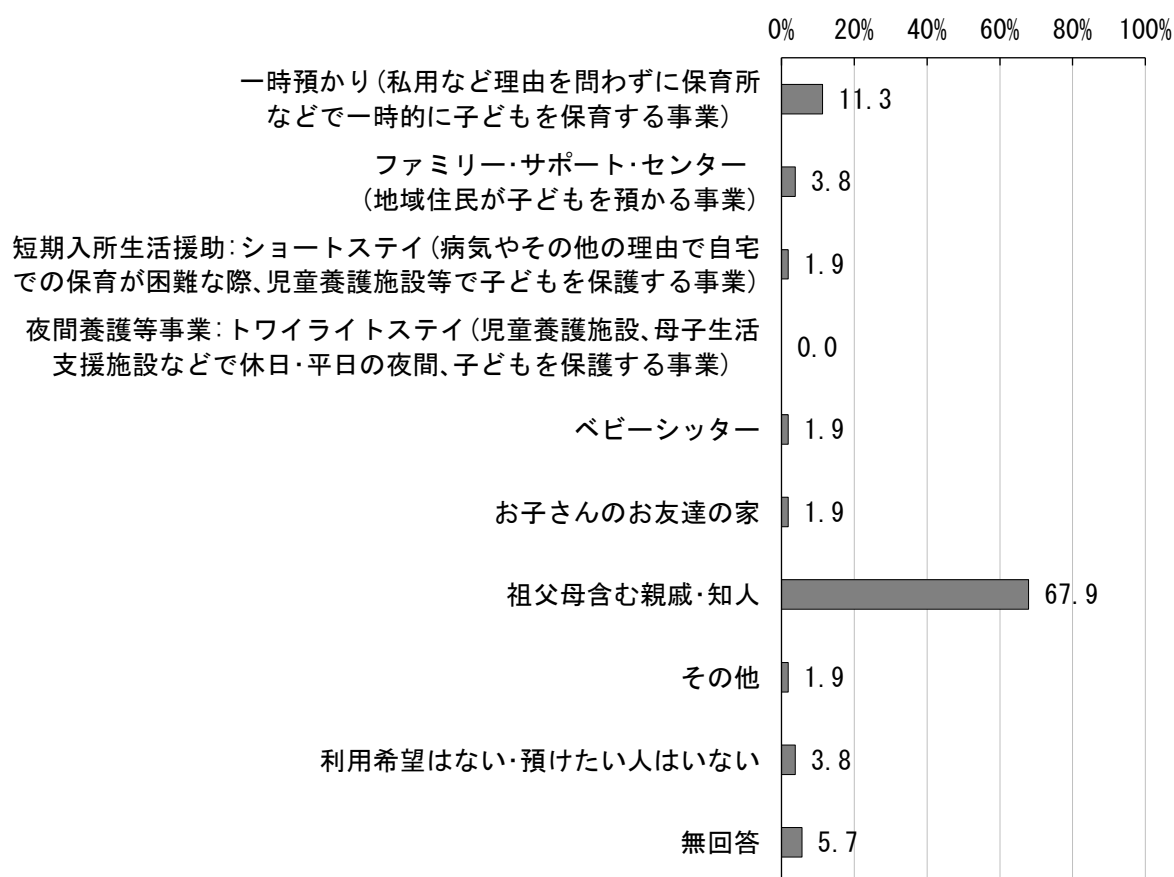
(2) お子さんを預ける際に利用したい事業

【問 1 4 で「1」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 4 - 1 宛名のお子さんを家族以外に預ける場合は、どの事業を利用（だれに）したいと思いますか。（最も当てはまるもの 1 つに○）

子どもを家族以外に預ける際に利用したい預け先は、「祖父母含む親戚・知人」が 67.9%と最も高く、次いで「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」が 11.3%、「ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる事業）」「利用希望はない・預けたい人はいない」がそれぞれ 3.8%となっています。

n=53

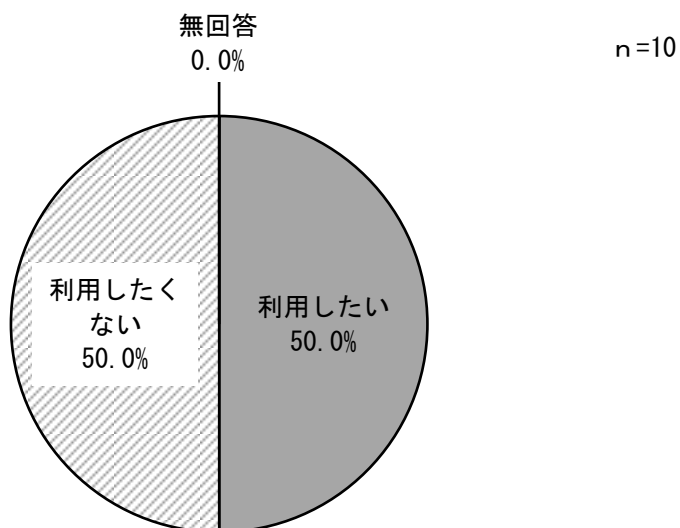


(3) 一時預かり事業の日曜日の利用希望の有無

【問 1 4 — 1 で「1 ～ 5」を選んだ方にうかがいます。】

問 1 4 — 2 選択された一時預かり事業について、日曜日に利用したいとお考えですか。(当てはまるもの 1 つに○)

日曜日の一時預かり事業の利用希望は、「利用したい」「利用したくない」がそれぞれ 50.0%となっています。



7 お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について

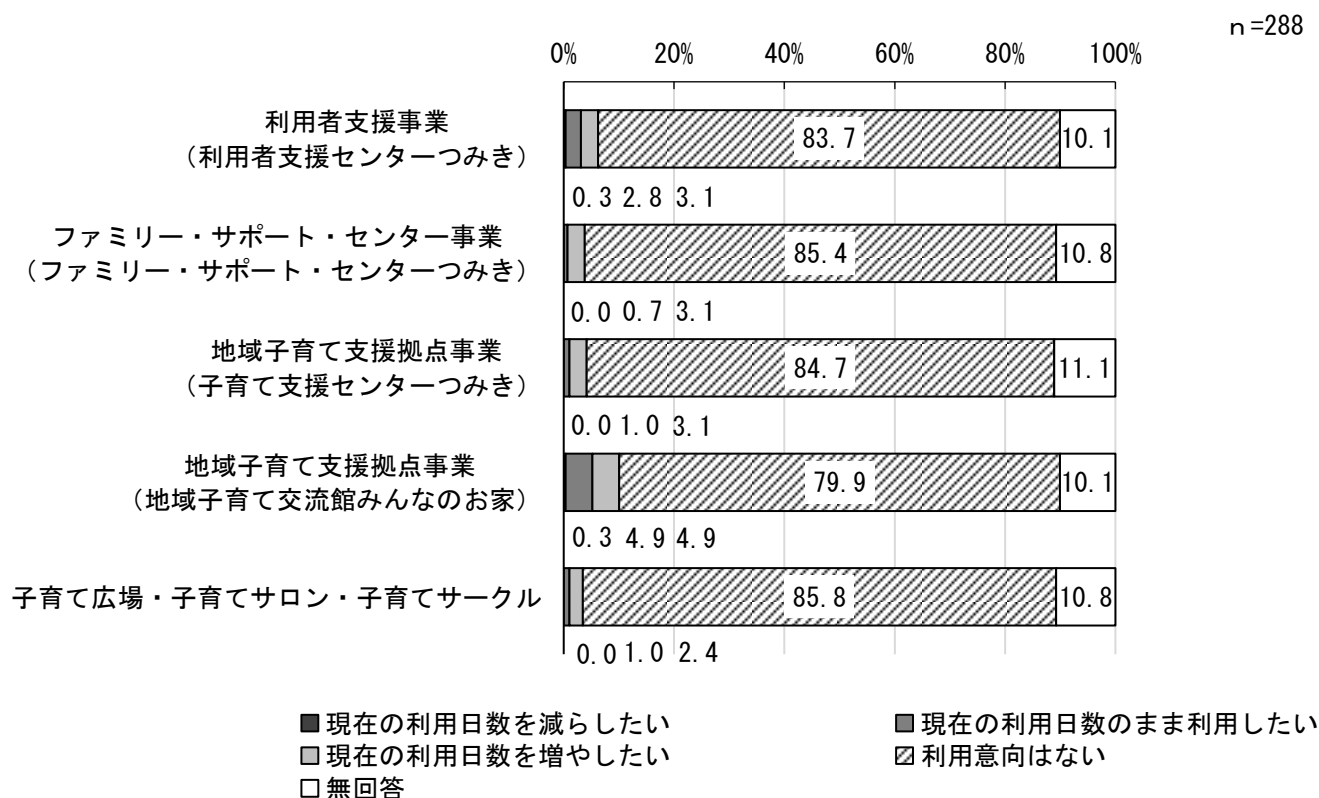
(1) 地域子育て支援策の利用希望の有無

問15 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援策の利用希望はありますか。下記の事業について、どの程度利用したいかお答えください。現在利用しておらず、新たに利用したい方は「3」をお選びください。(それぞれ当てはまるもの1つに○)

現在の地域子育て支援策の利用希望については、どの事業も『利用意向はない』の割合が最も高くなっています。

『現在の利用日数のまま利用したい』割合は、「地域子育て支援拠点事業（地域子育て交流館みんなのお家）」が4.9%と最も高く、次いで「利用者支援事業（利用者支援センターつみき）」が2.8%となっています。

『現在の利用日数を増やしたい』割合は、「地域子育て支援拠点事業（地域子育て交流館みんなのお家）」が4.9%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センターつみき）」「ファミリー・サポート・センター事業（ファミリー・サポート・センターつみき）」「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センターつみき）」がそれぞれ3.1%となっています。



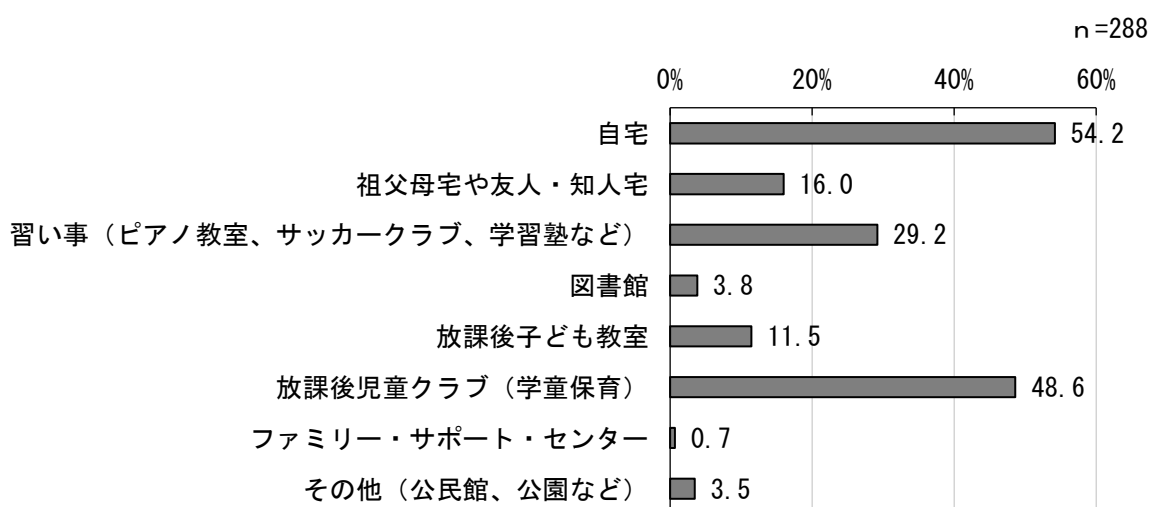
8 放課後の過ごし方について

(1) 放課後過ごさせたい場所

問16 宛名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいですか。または、過ごしていましたか。（低学年・高学年のそれぞれ、最も当てはまるもの3つに○）

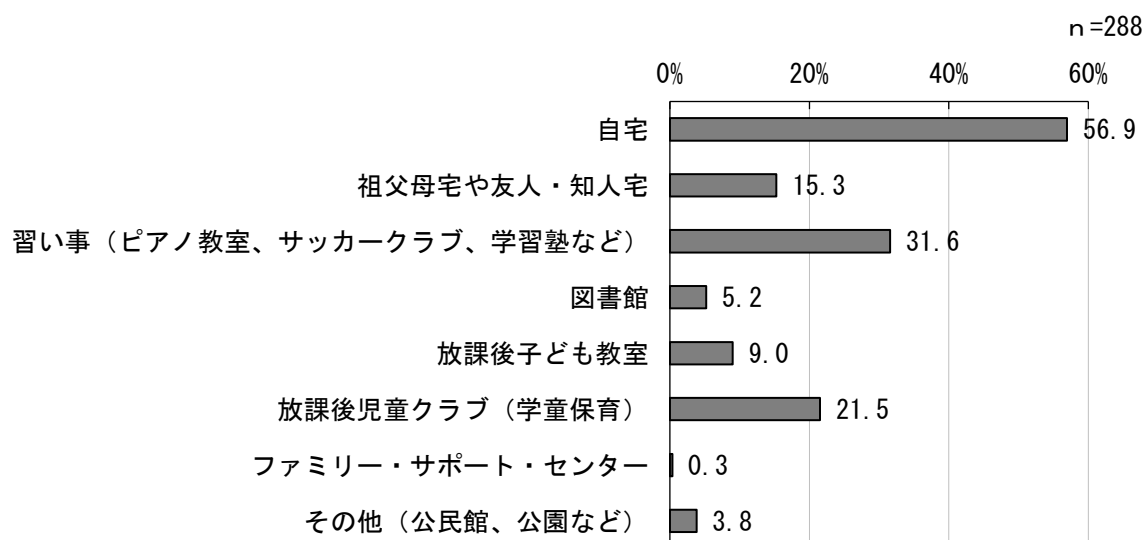
【1～3年生】

放課後過ごさせたい場所は、「自宅」が54.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が48.6%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が29.2%となっています。



【4～6年生】

放課後過ごさせたい場所は、「自宅」が56.9%と最も高く。次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が31.6%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が21.5%となっています。

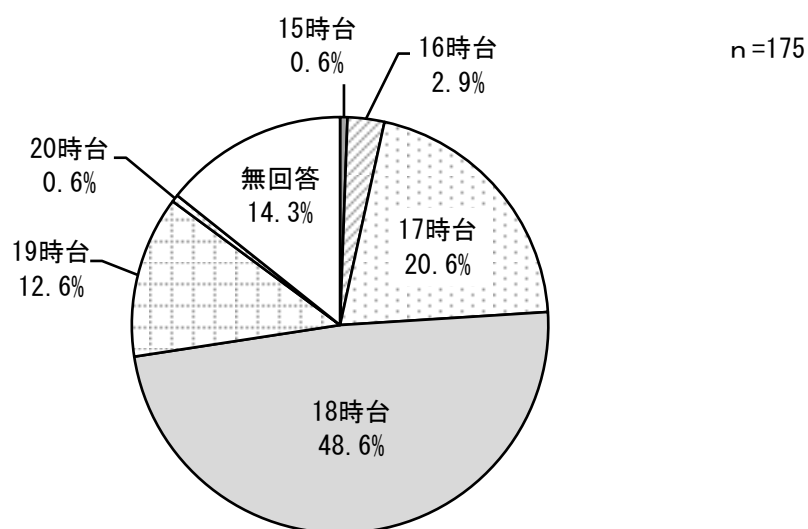


(2) 放課後児童クラブの利用時間の希望

【問 16 で「4～7」を選んだ方にうかがいます。】

問 16-1 宛名のお子さんについて、平日の利用時間について何時までを希望しますか。24 時間でお書きください。

平日の放課後学童クラブの希望利用時間は何時までかについては、「18 時台」が 48.6%と最も高く、次いで「17 時台」が 20.6%、「19 時台」が 12.6%となっています。



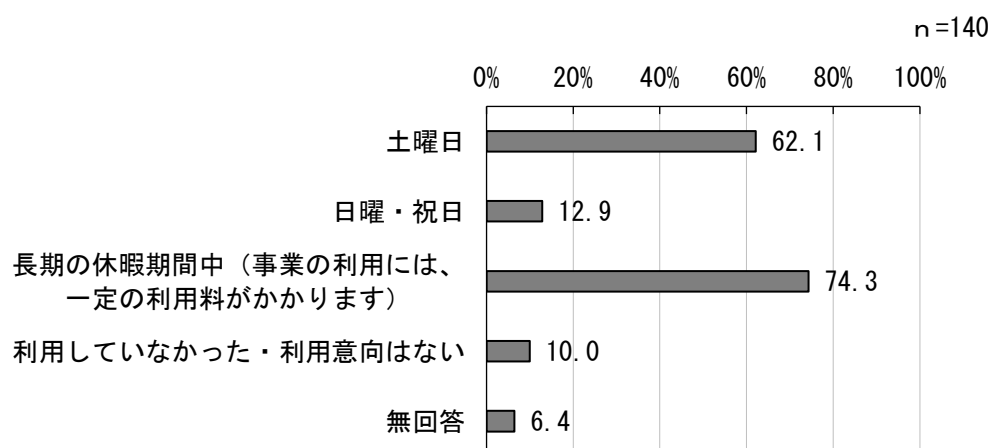
(3) 放課後児童クラブの利用意向

【問16で「6」を選んだ方にうかがいます。】

問16-2 宛名のお子さんについて、土曜日、日曜・祝日、長期の休暇期間中に、放課後児童クラブの利用を希望しますか。または、過ごしていましたか。(低学年・高学年のそれぞれ当てはまるものすべてに○)

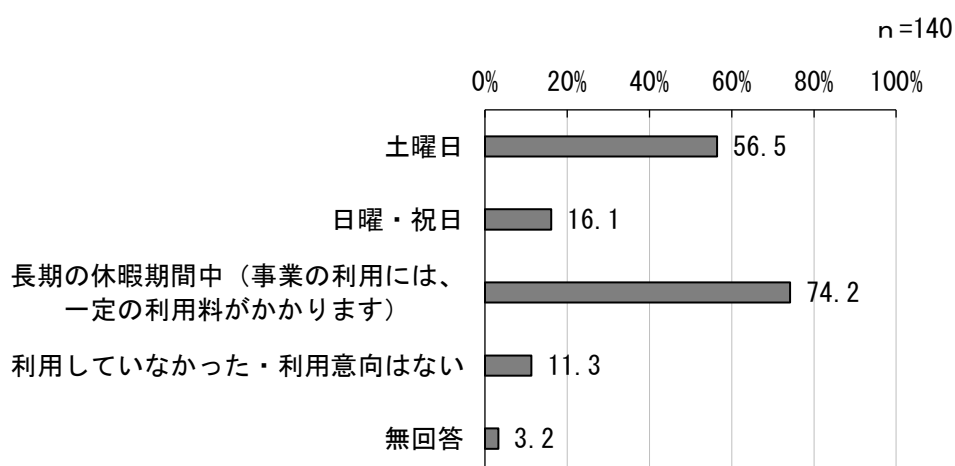
【1～3年生】

土曜日、日曜・祝日、長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用意向、また利用していたかについては、「長期の休暇期間中」が74.3%と最も高く、次いで「土曜日」が62.1%、「日曜・祝日」が12.9%、「利用していなかった・利用意向はない」が10.0%となっています。



【4～6年生】

土曜日、日曜・祝日、長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用意向、また利用していたかについては、「長期の休暇期間中」が74.2%と最も高く、次いで「土曜日」が56.5%、「日曜・祝日」が16.1%、「利用していなかった・利用意向はない」が11.3%となっています。

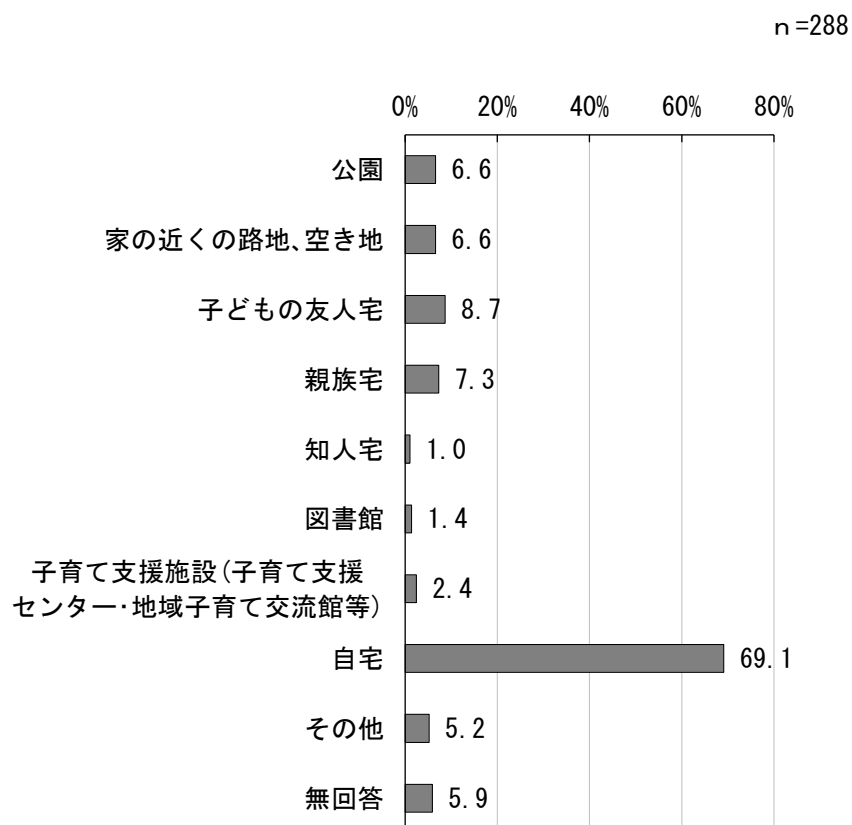


9 子どもの居場所

(1) 学校以外の遊び場所

問 1 7 お子さんは学校以外で、日中にはどこで遊ぶことが多いですか。(当てはまるもの一つに○)

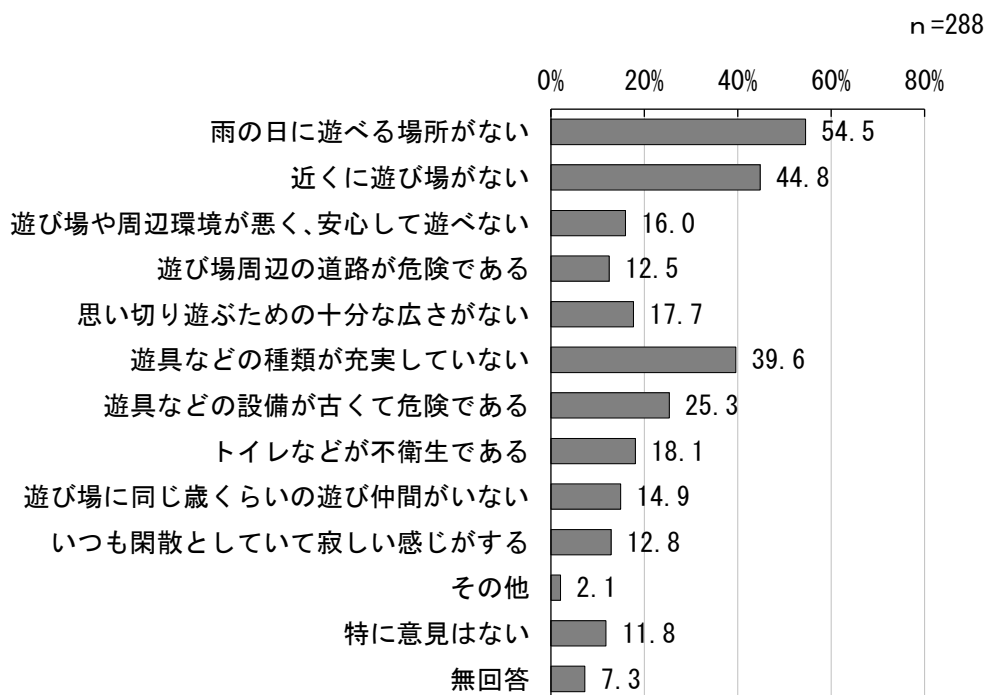
日中の子どもの遊び場所は、「自宅」が 69.1%と最も高く、次いで「子どもの友人宅」が 8.7%、「親族宅」が 7.3%となっています。



(2) 子どもの遊び場で困ること

問 18 子どもの遊び場で困ること・困ったことは何ですか。(当てはまるものすべてに○)

子どもの遊び場で困ることは、「雨の日に遊べる場所がない」が 54.5%と最も高く、次いで「近くに遊び場がない」が 44.8%、「遊具などの種類が充実していない」が 39.6%となっています。

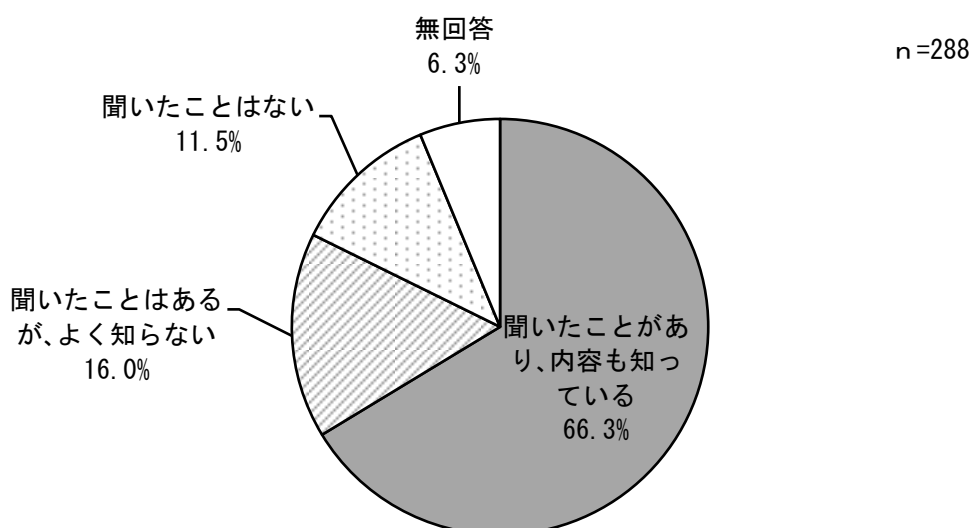


10 ヤングケアラー関係

(1) ヤングケアラーの認知

問19 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(当てはまるもの1つに○)

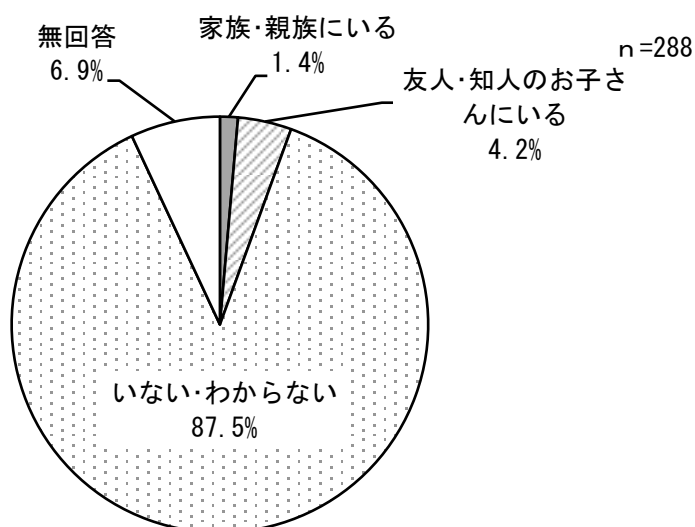
ヤングケアラーという言葉の認知については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が66.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が16.0%、「聞いたことはない」が11.5%となっています。



(2) 周囲でのヤングケアラーの有無

問20 家族や親族、または友人・知人のお子さんにヤングケアラーと思われるお子さんはいますか。(当てはまるもの1つに○)

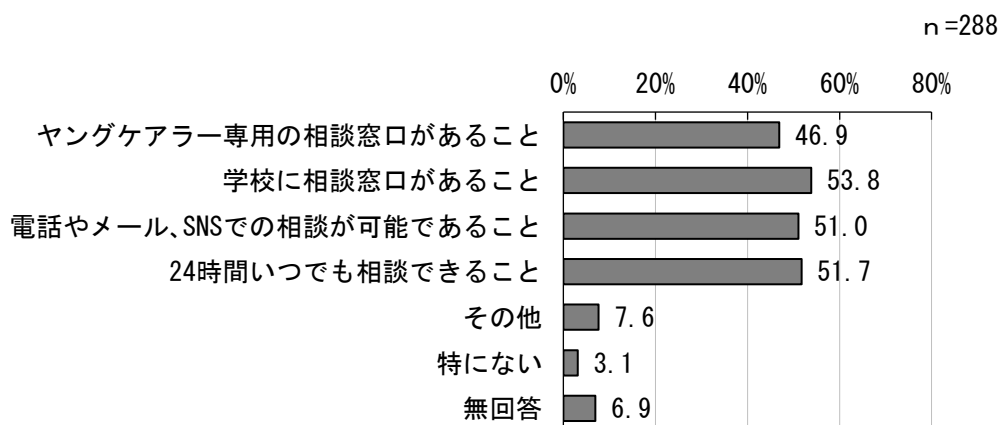
周囲でのヤングケアラーの有無は、「いない・わからない」が87.5%と最も高く、次いで「友人・知人のお子さんにいる」が4.2%、「家族・親族にいる」が1.4%となっています。



(3) ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりに必要なこと

問 2 1 ヤングケアラーに関して、相談しやすい環境づくりとして必要なことはどんなことだと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください（複数回答可）。

ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりに必要なことは、「学校に相談窓口があること」が 53.8%と最も高く、次いで「24 時間いつでも相談できること」が 51.7%、「電話やメール、SNSでの相談が可能であること」が 51.0%、「ヤングケアラー専用の相談窓口があること」が 46.9%となっています。

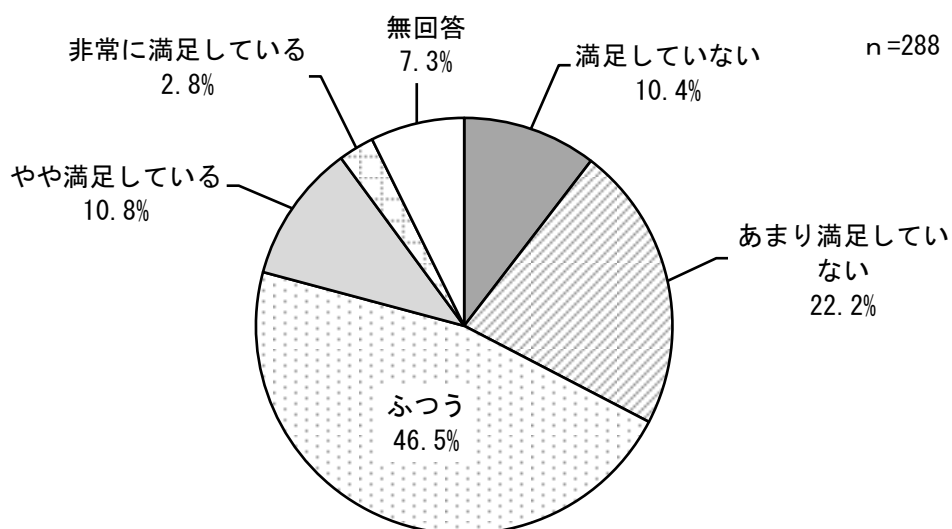


11 さいごに

(1) 子育て環境や支援の満足度

問22 お住まいの地域における、子育て環境や支援への満足度についてお答えください。
(当てはまるもの1つに○)

地域における子育て環境や支援の満足度は、「ふつう」が46.5%と最も高く、次いで「あまり満足していない」が22.2%、「やや満足している」が10.8%、「満足していない」が10.4%、「非常に満足している」が2.8%となっており、「非常に満足している」「やや満足している」を合わせた『満足している』は13.6%、「満足していない」「あまり満足していない」を合わせた『満足していない』は32.6%となっています。



Ⅳ 自由意見（多数意見を中心に一部抜粋）

1 子育て環境や支援に関するご意見

（１）病院・医療費助成経済的支援等

- ・地域に小児科がほとんどなく、選択肢も少ないため市外の小児科に通院しなければならず不便。
- ・給食費無料（小中学校）大変助かっております。
- ・こども医療費を助成してくださる制度は非常にありがたいです。できれば窓口で支払って後日振込よりも窓口支払いゼロが嬉しいです。
- ・オムツ、おしりふきなど無料にしてほしい。
- ・小、中学校の制服、学用品の補助金があれば助かる（全員）。
- ・産婦人科がないこと。妊婦検診も南九州市外へ行かねばならず時間的にも距離的にも負担である。小児科が少ない。
- ・病院での診察料金の手出しがなくなってくれと助かります。

（２）相談場所・支援センター・情報提供等

- ・土日に子育て支援センターが開所していれば良い。休日に遊ぶ場を充実させてほしい。
- ・パパの妊婦体験や料理教室、育児参加率があがるような取り組みができれば良いと思う。（遊び方を教えたり手遊びや体を使った遊び方など）
- ・相談場所が明確でなく迷ったりする。週1、月1で相談出来る場所（対面）やSNS等、もう少し気軽に相談できる場所があると有難いです。
- ・気軽に孫ケアラーの相談できる、声をあげることが出来る場があればと思います。現代は共働きしていかなば生活もなかなかです。
- ・学校への行事等へも参加しますが、親同士の交流の場がなく、学校生活や育児進学等の不安を相談できる場が欲しいと思います。

（３）公園・室内施設等

- ・雨の日でも楽しめるような施設を増やしてほしい。
- ・市内にある公園等の遊具施設をもう少し充実させてほしい。
- ・公園の遊具の老朽化。使用禁止、撤去にて遊べる遊具が少ない。
- ・子供が安心して遊べるような公園などが車で行かないといけないので不便である。
- ・子供用小便器、子供用便器が少ない。大人用便器横に子供用簡易便座を置いているところが少ない。
- ・屋根のある遊び場がほしい。暑さや雨に対応できるような…。公園の遊具を充実させてほしい。
- ・乳幼児がのびのびと遊べる公園がほしい。（どこの公園に行っても大きめの子たちが走り回っていてゆっくり遊ばせる事ができない）
- ・高学年、中学生が楽しめるような公園（遊具）が増えるといいです。
- ・川辺は町の中心に図書館があるのがとても良いと思うので、子供が伸び伸び安心安全に遊べる場所もっと身近にあると良いと思う。

（４）保育園・幼稚園・こども園

- ・保育料も0歳から無償化にして欲しいです。
- ・知覧に住んでいるが、知覧の保育園に入れない。
- ・保育士の確保も必要ですが、これからは近隣の市町村に保育士が流れていかないように既に雇用されている保育士への市からの独自の手当などがあればありがたいです。

(5) 放課後児童クラブ・サークル等

- ・平日は仕事なので、土日に実施している子どもと参加できるサークル活動やイベントがあるといい。(特に日曜日)
- ・長期休み(春、夏、冬休み)だけでも預けられる学童の受け入れ施設を増やしてほしい。
- ・保育園の児童クラブの時間利用を朝 8:00~にしてほしい。仕事時間に大変です。
- ・放課後、1~2 時間残れるような環境が整うとよいです。(現在はクラブ活動に入っている子供のみ残れるようなので)。
- ・学童クラスの受け入れ人数を増やしてほしい。
- ・学童など小学校低学年ではなく、どこも 6 年生までみってくれる場所があったら助かります。

(6) 預けられる(預かってもらえる)場所

- ・病児保育がなく、安心して預ける場所がない。祖父母がいない(協力してもらえない)家庭は両親が働いていると仕事ができない。
- ・長期休み(夏や冬)に子供を預けるところが少ない。しかも料金が高い。
- ・申し込みや空き状況が、ネットやアプリで簡単に確認できると便利で助かります。
- ・急病時など、一時預かりみたいに代わりに預かってくれる施設等があるととても助かる。

(7) その他

- ・幼児用品等を取り扱う店が少ない。
- ・育児休業給付、保険料免除なども、もう少し皆に伝わるように知らせてほしいですし、会社に知らせる(知らせる)ような仕組み(行った会社には補助金を出すなど)を考えてほしいです。
- ・給料が減り、経済的に苦しい。特にコロナ、インフルエンザが流行している時が1 番大変でした。市や国からの補助金は所得に応じてですが子供が多く、学費や生活費も高騰しているので何も役には立たずです。こういう状況では子供を産もうと思わない、思えない時代です。
- ・地域によってだとは思いますが、母子家庭でも学校や子ども会連合会など役員をしないといけなく、正直厳しい。夜等、子守りなど確保が難しい。(話し合い、集会)。
- ・子供の救急時対応セミナーがあったら受けてみたいです。
- ・妊娠、出産、出生祝金が現金なのはありがたいです。記念品の命名プレートは飾ることができるので嬉しいです。
- ・子育てしている母親が働きやすい職場がない。
- ・移動図書館車が来る日を増やして欲しい。学校や施設にも来る回数を増やして欲しいし、もっと色々なイベントに来てほしい。
- ・市役所の駐車場「シルバー優先」があるなら「子育て優先」も作ってほしいです。子連れ(特に未就学児 2、3 人連れ)の駐車場は大変です。
- ・学校が近い地区でも外灯が少なかったり歩道も商店街のある地区しか整備されていないので、ベビーカーを引いてお散歩も大変だった。
- ・南九州市には陣痛タクシー(ママタクシー)制度も取り入れられてないので、そうした制度をタクシー会社も導入して頂けると嬉しいです。
- ・親へのニーズに応えようとして頂いている反面、子どもたちのニーズは置き去りなのでは?と思うことがあります。本当は、もっとお家の方と過ごしたいのかもしれない、ゆっくりしたいのかもしれないので、子どもたちの気持ちもとても大切にしたい体制を望みます。
- ・授業についていけない、学校を休めば尚更、遅れがあり、支援教室、サポートが欲しい。
- ・就学前の家庭内の虐待事件を防止するために、定期的に定期検診的な場をもっともうける必要があると思います。
- ・子育てに限らず、不自由な人も含めて家事なども気軽にサポートできる体制ができると住み良い地域になると思います。
- ・不登校の子どもたちに、勉強ができる環境を各地域に作って欲しい。知覧のスマイルだけでは、立地的に通えない…。

**「第3期南九州市子ども・子育て支援事業計画」
策定のためのアンケート調査 結果報告書**

発行年月：令和6年5月

発 行：南九州市

編 集：南九州市 こども未来課子育て支援係

住 所：〒897-0215

南九州市川辺町平山 3234

電 話：0993-56-1111